秋田県文化財調査報告書第341集

岱Ⅱ遺跡

（第２次調査）

―日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅻ―

２００２・３

秋田県教育委員会

岱（たい）Ⅱ遺跡

（第２次調査）

―日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XIII―

２００２・３

秋田県教育委員会

調査状況（南東→北西）

竪穴住居跡（南→北）

序

本県には、これまでに発見された約4,500箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した香り高い文化を育んでいくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、ゆとりと活力に満ちた新しいふるさと秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会では、これら地域開発との調和をはかりながら、埋蔵文化財を保護し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、日本海沿岸東北自動車道建設に先立って、平成13年度に河辺町で実施した岱Ⅱ遺跡の第２次調査の成果をまとめたものであります。この調査では、平成11年度の第１次調査で発見された縄文時代の集落跡の広がりを確認し、当時の人々の生活の一端がさらに明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力をいただきました日本道路公団東北支社秋田工事事務所、河辺町教育委員会など関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成14年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　清

例　　言

1．本書は、日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書の13冊目である。

2．本書は、平成13年度（2001年度）に発掘調査した、秋田県河辺郡河辺町畑谷字岱に所在する岱Ⅱ遺跡の調査成果を収めたものである。

3．本書に使用した図は、日本道路公団東北支社秋田工事事務所提供の工事路線計画図1,000分の１『日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線（河辺東工事）岩城－河辺№18』および建設省国土地理院発行の50,000分の１地形図『羽後和田』と25,000分の１地形図『羽後和田』である。

4．遺跡基本層序と遺構土層図中の土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1998年版に拠った。

5．本書の執筆は、進藤紀の協力を得て村上義直が行った。

凡　　例

1．遺構番号は、その種類ごとに略記号を付し、種別を問わず検出順に連番としたが、精査と整理作業の過程で欠番としたものもある。また、遺構の種類に用いた略記号は下記の通りである。

ＳＩ……竪穴住居跡　　ＳＫ……土坑　　ＳＸ……性格不明遺構

ＳＫＰ……柱穴様ピット

目　　次

巻頭図版
序
例言……ii
凡例……ii
目次……iii
挿図・表・図版目次……iv

第１章　はじめに……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査要項……3

第２章　遺跡の環境……4
　第１節　遺跡の位置と立地……4
　第２節　歴史的環境……8

第３章　発掘調査の概要……10
　第１節　遺跡の概観……10
　第２節　調査の方法……10
　第３節　調査の経過……10

第４章　調査の記録……12
　第１節　基本層序……12
　第２節　検出遺構と出土遺物……12
　第３節　遺構外出土遺物……18
　　１．土器……22
　　２．石器……22

第５章　まとめ……25

報告書抄録
あとがき

挿　図　目　次

第１図　岱Ⅱ遺跡の位置……1
第２図　路線と位置……2
第３図　地形区分図……4
第４図　周辺遺跡位置図……5
第５図　調査範囲図……11
第６図　基本層序……12
第７図　遺構配置図……13
第８図　ＳＩ04、ＳＫ01・02・03・05……15
第９図　ＳＫ07・11、ＳＸ08……16
第10図　柱穴様ピット配置図……17
第11図　柱穴様ピット配置図(東側)……18
第12図　柱穴様ピット配置図(西側)……19
第13図　遺構外出土土器……23
第14図　遺構外出土石器……24

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧(１)……6
第２表　周辺遺跡一覧(２)……7
第３表　柱穴様ピット一覧(１)……20
第４表　柱穴様ピット一覧(２)……21

図　版　目　次

巻頭図版－１　調査状況(南東一北西)
　　－２　竪穴住居跡(南一北)
図版１－１　岱Ⅲ遺跡からの遠景(西一東)
　　１－２　調査状況(北東一南西)
図版２－１　調査終了状況(南東一北西)
　　２－２　ＳＩ04確認状況(南東一北西)
図版３－１　ＳＩ04完掘状況(南一北)
　　３－２　ＳＩ04完掘状況(北一南)
図版４－１　ＳＩ04完掘状況(東一西)
　　４－２　ＳＩ04礫･焼土塊出土状況(南一北)
図版５－１　ＳＫ01確認状況(南西一北東)
　　５－２　ＳＫ01完掘状況(南一北)
図版６－１　ＳＫ01土層断面(南一北)
　　６－２　ＳＫ02確認状況(南一北)
図版７－１　ＳＫ02完掘状況(南一北)
　　７－２　ＳＫ02土層断面(南一北)
図版８－１　ＳＫ03確認状況(南一北)
　　８－２　ＳＫ03完掘状況(南一北)
図版９－１　ＳＫ03土層断面(南一北)
　　９－２　ＳＫ05確認状況(西一東)
図版10－１　ＳＫ05完掘状況(南一北)
　　10－２　ＳＫ05土層断面(南東一北西)
図版11－１　ＳＫ07確認状況(南一北)
　　11－２　ＳＫ07完掘状況(南一北)
図版12－１　ＳＫ07土層断面(南一北)
　　12－２　ＳＸ08完掘状況(南西一北東)
図版13－１　ＳＫ11完掘状況(南一北)
　　13－２　ＳＫ11土層断面(南一北)
図版14－１　縄文土器
　　14－２　縄文土器・須恵器・石器

第1章　はじめに

第１節　調査にいたる経過

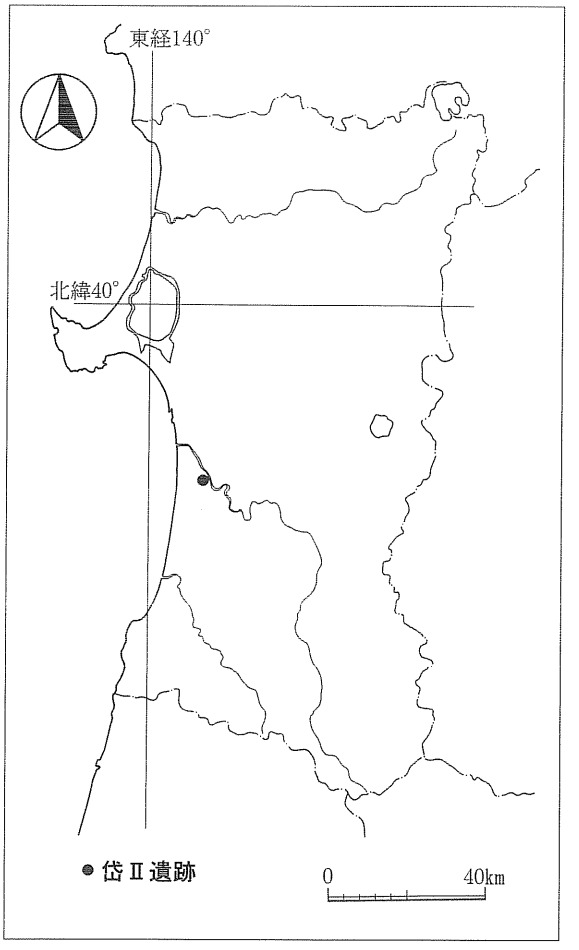
日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から青森市にかけての日本海沿岸や県内の高速交通体系の改善など、地域の生産活動と県民生活に必要な情報や資源の交流を促進することを目的として計画された総延長340kmの高速道路である。このうち、秋田県内では、国土交通省によって一部事業化されている象潟仁賀保道路及び仁賀保本荘道路、秋田外環状道路、琴丘能代道路、大館西道路と連結して、小坂ＪＣＴで東北自動車道に接続する。1997(平成９)年２月に新潟市～青森市までが日本海沿岸東北自動車道として路線指定され、このうちの秋田南Ｉ・Ｃ～昭和男鹿半島Ｉ・Ｃ間の25.7kmについては、同年11月13日に開通している。

岱Ⅱ遺跡に係る岩城町～河辺町間の17.2kmについては、1992(平成４)年１月に整備計画区間となり、翌年11月の第12次施工命令を経て、1994(平成６)年11月には路線が発表された。これに伴い、日本道路公団東北支社仙台建設局長から、秋田県教育委員会教育長あてに、計画路線内での埋蔵文化財の分布調査の実施依頼があった。

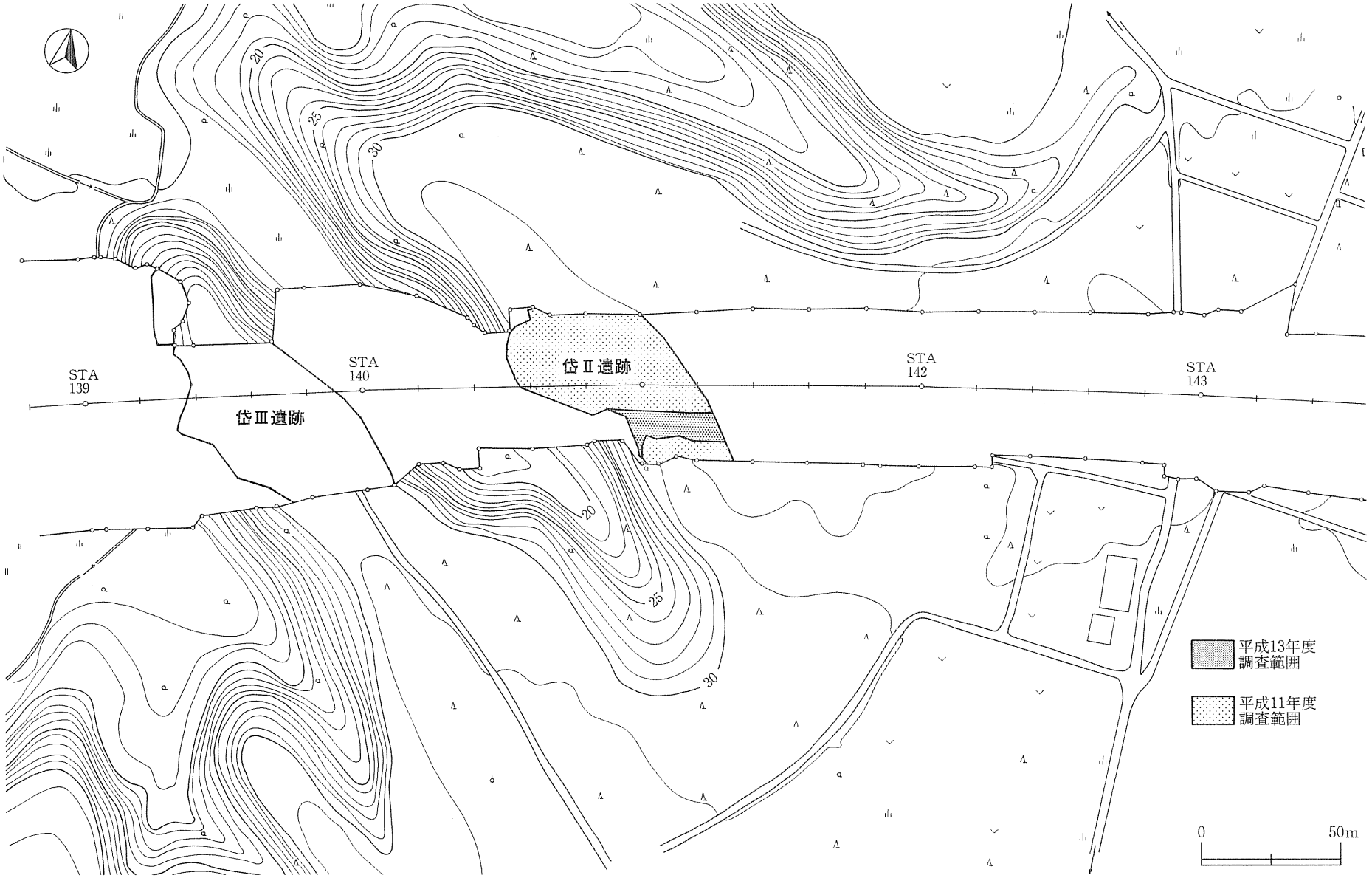
これを受けて県教育庁文化課では、路線上の埋蔵文化財確認のため、1996(平成８)年６・７月に分布調査を実施し、その結果、路線内に周知の遺跡である松木台Ⅲ遺跡と新たに発見した井戸尻台Ｉ遺跡・井戸尻台Ⅱ遺跡・岱Ｉ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡・蟹沢Ｉ遺跡が存在することが明らかとなった。

岱Ⅱ遺跡については、工事区域内の12,000㎡を対象範囲として、1998(平成10)年４・５月にかけて範囲確認調査を行い、その結果、遺跡は縄文時代中期の集落跡で、工事区域内の2,623㎡について発掘調査が必要であることがわかった。発掘調査は、平成11年の５・６月に暫定２車線部分の2,200㎡を対象として第一次調査を行い、平成13年４・５月には、４車線分の残りの423㎡を第２次調査として行った。

岱Ⅱ遺跡の第２次調査が行われた平成13年には、同事業に伴って本荘市～岩城町間で、上谷地遺跡(本荘市)の発掘調査と、大坪遺跡・新谷地遺跡(いずれも本荘市)の確認調査も実施している。



第１図　岱Ⅱ遺跡の位置


STA
139
STA
140
STA
142
STA
143
岱Ⅱ遺跡
岱Ⅲ遺跡
20
25
30
平成13年度
調査範囲
平成11年度
調査範囲
0
50m

第2図　路線と遺跡

第２節　調査要項

遺　跡　名	岱Ⅱ遺跡(たいにいせき)
遺跡略号	５Ｔ－Ⅱ
遺跡所在地	岱Ⅱ遺跡：秋田県河辺郡河辺町畑谷字岱314外
調査期間	岱Ⅱ遺跡：平成13年４月23日～５月16日
調査目的	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査
調査面積	423㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	村上　義直(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　文化財主事)
	進藤　　紀(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　学芸主事)
	利部　　修(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　学芸主事)
	吉川耕太郎(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　文化財主事)
	菊池　朋宏(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　非常勤職員)
	小澤　昌広(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　非常勤職員)
	小納谷　亮(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　非常勤職員)
	佐藤　健志(秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課　非常勤職員)
総務担当者	佐藤　　悟(秋田県埋蔵文化財センター 総務課長)
	土橋　謙一(秋田県埋蔵文化財センター 総務課主事)
調査協力機関	日本道路公団東北支社秋田工事事務所

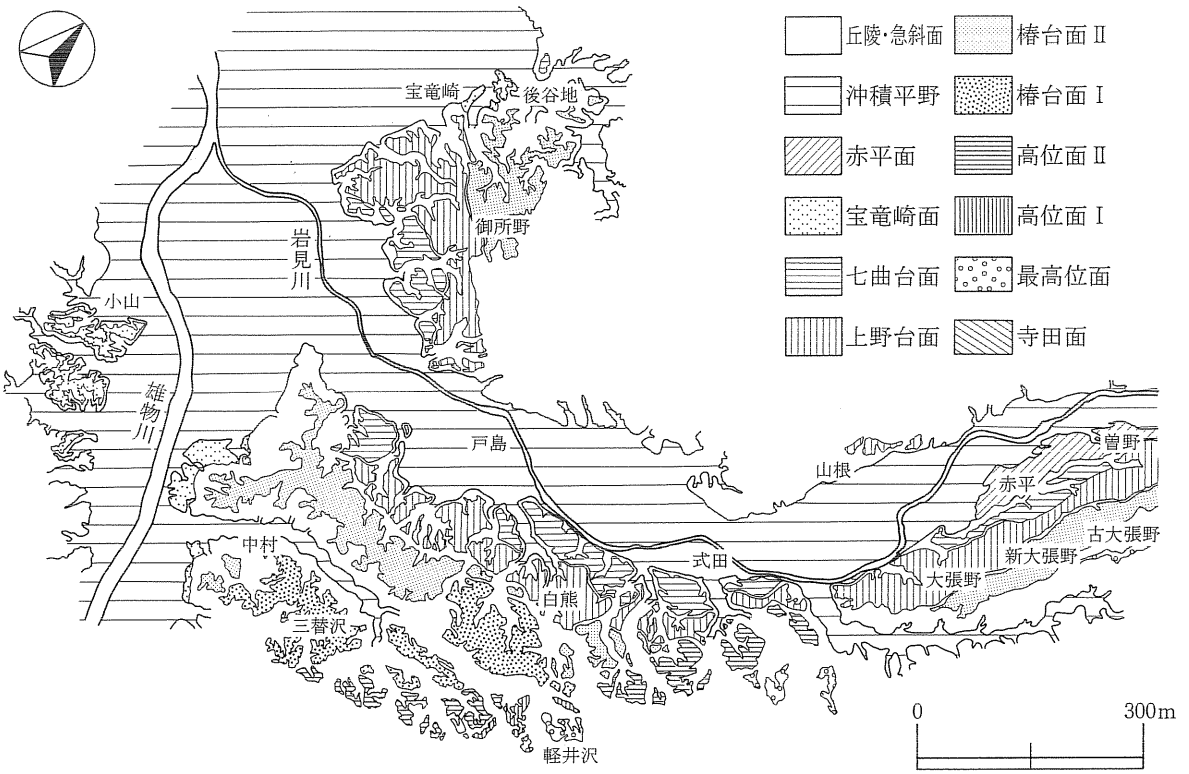
第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地(第３図)

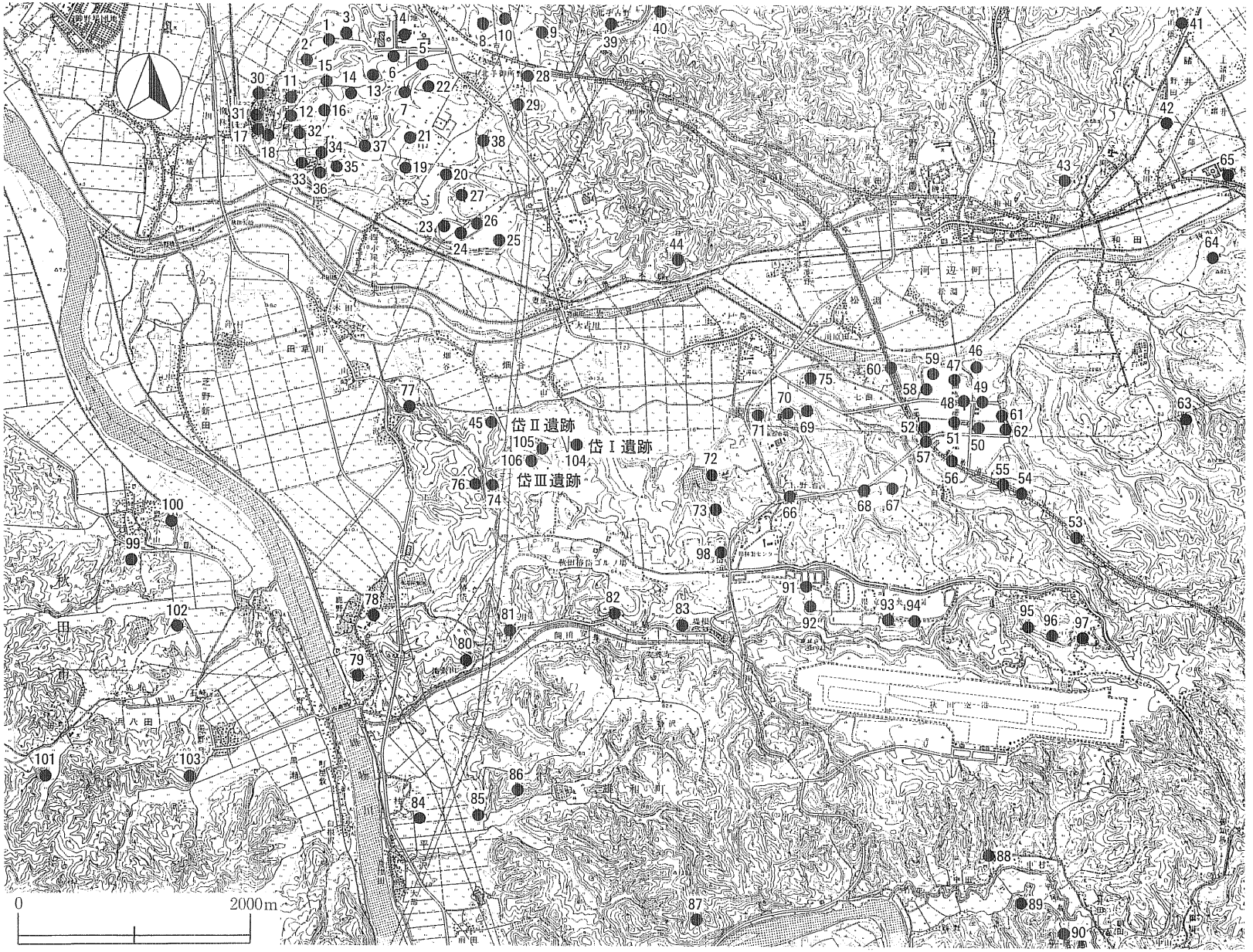
岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡は、秋田県河辺郡河辺町畑谷字岱に所在する。遺跡のある河辺町は、秋田県の中央部沿岸寄りに位置しており、北西部の大半は秋田市と隣接し、西南部は河辺郡雄和町、東南部は仙北郡協和町、東部は同郡西木村、北部は北秋田郡上小阿仁村、北東部は同郡阿仁町と接する人口約１万１千人の町である。特に北西部に隣接する秋田市は、人口30万人を擁する県庁所在地であり、この秋田市に向かう東北横断自動車道秋田線(秋田自動車道)、国道13号線、秋田空港アクセス道路(現在建設中)、ＪＲ奥羽本線などの主要交通網が河辺町にも集中している。

遺跡は、秋田市中心部から国道13号線を約15km南東に下って河辺町和田地区に入り、秋田空港に向かう県道秋田－御所野－雄和線へ右折すると、正面に平坦な台地の広がりが現れる。この台地は出羽山地の西端にあたり、河辺町を貫流する岩見川によって形成された段丘面である。岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡は、この段丘のうちの七曲台面の上にあり、西流する岩見川の左岸、標高約30～34mに位置する。

遺跡が立地する七曲台面は、岩見川流域と雄物川下流域に形成された沖積平野より高位に分布する５つの段丘面(高位面、椿台面Ⅰ、七曲台面、宝竜崎面、赤平面)のうちの一つである。これらは段丘面の高度や開析度および立地上の特徴に基づいて、さらに10段の段丘面に分類される。その段丘面の分布を第３図に掲げる。七曲台面は５群のなかで中位の段丘面群であり、細別すると高位の上野台面



第３図　地形区分図



第４図　周辺遺跡位置図

第１表　周辺遺跡一覧(1)

番号	遺跡名	遺跡地図登録番号	所　在　地	調査年	内　　容	文献
1	下堤A	1-283	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S62	縄文中期集落(竪穴住居跡・フラスコ状ピット・土坑) 平安集落(竪穴住居跡・土師器)	A・V
2	下堤B	1-282	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S62	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑) 平安集落(竪穴住居跡・須恵器)	A・V
3	下堤C	1-284	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S61・62	縄文(土器) 奈良・平安集落(竪穴住居跡・土師器・須恵器)	A・U
4	下堤D	1-286	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S56	旧石器、縄文前期・中期集落、平安集落	A
5	下堤E	1-298	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S59	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)	A・R
6	下堤F	1-297	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S59	縄文前期・中期集落(竪穴住居跡・土坑)	A・R
7	下堤G	1-299	秋田市四ツ小屋小阿地字下堤	S57	旧石器、縄文前期・中期集落(竪穴住居跡・土坑)	A・P
8	地方	1-287	秋田市上北手猿田字堤ノ沢	S61	縄文中期集落(竪穴住居跡・掘立柱建物跡) 縄文晩期(土坑墓)	A・T
9	台A	1-290	秋田市上北手吉野字台	S60	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑・土器・石器)	A・S
10	台B	1-288	秋田市上北手猿田字堤ノ沢	S61	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)	A・T
11	坂ノ上A	1-291	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上		縄文中期・後期集落(竪穴住居跡・土坑・配石遺構)	A
12	坂ノ上B	1-292	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上		縄文前期(土器・石棒)	A
13	坂ノ上C	1-296	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	S57	縄文中期・晩期(土器・石器)	A
14	坂ノ上D	1-295	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	S57	縄文中期・晩期(土器・石器)	A
15	坂ノ上E	1-293	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	S58	縄文中期集落(竪穴住居跡) 平安(製鉄炉・炭焼窯)	A・Q
16	坂ノ上F	1-294	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上	S59	縄文中期・後期集落(竪穴住居跡・土坑) 弥生(住居跡)、古代(土師器・須恵器)	A・R
17	坂ノ下Ⅰ	1-305	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下		縄文(土器・石器)	A
18	坂ノ下Ⅱ	1-306	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下		縄文(土器・石器)、奈良・平安(須恵器)	A
19	湯ノ沢A	1-313	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S58	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、弥生(竪穴住居跡)	A・Q
20	湯ノ沢B	1-314	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S57	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑) 平安(土師器・須恵器)	A・P
21	湯ノ沢C	1-312	秋田市四ツ小屋未戸松本字地蔵田	S58	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、弥生(土器)	A・Q
22	湯ノ沢D	1-300	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S59	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、平安(炭焼窯)	A・R
23	湯ノ沢E	1-317	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S58	縄文後期(土坑・石組遺構)	A・Q
24	湯ノ沢F	1-318	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S58、60	弥生(土坑・土坑墓) 平安(土坑墓・鉄製品・銭貨・銙帯金具)	A・Q・S
25	湯ノ沢G	1-320	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S58	縄文後期(土器・石器)	A・Q
26	湯ノ沢H	1-319	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S58	縄文中期集落(土器・石器)、弥生(土器)	A・Q
27	湯ノ沢I	1-316	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S60	弥生(土坑)、平安(土師器)	A・S
28	深田沢	1-301	秋田市上北手古野字深田沢	S59	平安集落(掘立柱建物跡・竪穴住居跡・土師器・須恵器)	A・R
29	野形	1-302	秋田市上北手御所野字野形	S58	平安集落(竪穴住居跡・窯跡・土坑)	A・S
30	坂ノ下館	1-303	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下		中世城館	A
31	小阿地古墳	1-304	秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下		平安古墳(八花鏡・直刀・蕨手刀・鉄斧・勾玉・須恵器)	A
32	狸崎A	1-307	秋田市四ツ小屋小阿地字狸崎	S59	縄文前期集落跡(竪穴住居跡・土坑) 縄文晩期(土坑墓)、弥生(住居跡)	A・R
33	狸崎B	1-308	秋田市四ツ小屋小阿地字狸崎	H3・4	旧石器、縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑) 弥生(土器)	A・W・Y
34	秋大農場	1-309	秋田市四ツ小屋小阿地字狸崎			A
35	秋大農場南		秋田市四ツ小屋未戸松本字地蔵田	H3	旧石器、縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑) 平安(住居跡)	W
36	地蔵田A	1-310	秋田市四ツ小屋未戸松本字地蔵田	H4・5	旧石器、縄文前期・中期集落(竪穴住居跡・土坑) 弥生(土器)、平安(須恵器)	A・X・Y
37	地蔵田B	1-311	秋田市四ツ小屋未戸松本字地蔵田	S60・H7	旧石器、縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑墓) 弥生集落(柵木列跡)	A・S
38	野畑	1-315	秋田市四ツ小屋未戸松本字湯ノ沢	S57	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)	A・P
39	古野館	1-321	秋田市上北手古野四枚田		中世城館(主郭・郭・腰郭・帯郭・空堀)	A・B
40	古野		秋田市上北手古野字向老方	H6	旧石器、縄文前期・中期集落(竪穴住居跡・土坑) 弥生(土器)、平安(須恵器)	A・H
41	堂平	33-12	河辺町諸井字山根		石斧・土師器・須恵器	A
42	野田	33-13	河辺町諸井字中道		旧石器、縄文前期・中期集落(竪穴住居跡・土坑) 弥生(土器)、平安(須恵器)	A
43	和田城	33-14	河辺町和田字岡村		中世城館(帯郭・空堀・土塁・陶片・刀・人骨)	A・B
44	戸島館	33-16	河辺町戸島字戸島館		中世城館(帯郭・空堀・土塁・陶片・刀・人骨)	A・B
45	畑谷館	33-17	河辺町畑谷字蟹沢		中世城館(空堀・土塁・土器片・石鏃)	A・B
46	風無台Ⅰ	33-18	河辺町松渕字風無台	S58	旧石器、縄文前期・後期(土器・石器) 縄文中期集落(竪穴住居跡・土器・石器) 古代(掘立柱建物跡・土坑)	A・D
47	風無台Ⅱ	33-19	河辺町松渕字風無台	S58	旧石器、縄文晩期集落(竪穴住居跡・土器・石器) 弥生	A・D
48	風無台Ⅲ	33-20	河辺町松渕字風無台	S59	縄文(土坑・剥片)	A・D
49	風無台Ⅴ	33-21	河辺町松渕字風無台	S59	縄文中期・後期(土器・石器)	A・D

第２表　周辺遺跡一覧(2)

番号	遺跡名	遺跡地図登録番号	所　在　地	調査年	内　　容	文献
50	石坂台Ⅰ	33-22	河辺町戸島字石坂台	S59	縄文中期集落(竪穴住居跡) 縄文前期・後期・晩期(土器・石器)、弥生(土器)	A・D
51	石坂台Ⅱ	33-23	河辺町戸島字石坂台	S59	縄文中期集落(竪穴住居跡・土器・石器) 弥生(土器)	A・D
52	石坂台Ⅲ	33-24	河辺町戸島字石坂台	S59	縄文中期・後期・晩期(土器・石器)	A・D
53	石坂台Ⅳ		河辺町戸島字七曲石坂台	S60	縄文前期・中期・後期(土器・石器)、近代(炭焼窯)	E・F
54	石坂台Ⅵ		河辺町戸島字七曲石坂台	S60	縄文晩期(土器・石器)、弥生	E・F
55	石坂台Ⅶ		河辺町戸島字七曲石坂台	S60	縄文前期・後期・晩期(土器・石器)、弥生(土器)	E・F
56	石坂台Ⅷ		河辺町戸島字七曲石坂台	S60	縄文中期・後期集落(竪穴住居跡・土器・石器) 弥生	E・F
57	石坂台Ⅸ		河辺町戸島字七曲石坂台	S60	縄文中期集落(竪穴住居跡) 縄文後期・晩期(土器・石器)	E・F
58	松木台Ⅰ	33-25	河辺町松渕字松木台	S59	縄文前期・中期・後期(土器・石器)、弥生(土器)	A・D
59	松木台Ⅱ	33-26	河辺町松渕字松木台	S59	旧石器、縄文後期・晩期(土器・石器)、古代(杯)	A・D
60	松木台Ⅲ		河辺町戸島字松木台	S60・ H7・10	旧石器、縄文中期集落(竪穴住居跡) 縄文後期・晩期(土器・石器)、古代(竪穴住居跡)	E・F
61	餅田沢Ⅰ	33-27	河辺町松渕字餅田沢	S58	縄文(土器・石器)	A・D
62	餅田沢Ⅱ	33-28	河辺町松渕字餅田沢	S58	縄文中期・後期集落(竪穴住居跡)	A・D
63	松沢城	33-29	河辺町和田字松沢		中世城館(空堀・土塁)	A・B
64	長者森	33-30	河辺町和田字鵜沢		古代(須恵器)	A
65	坂本館	33-31	河辺町和田字館脇		中世城館	A・B
66	上祭沢		河辺町戸島字上祭沢	H1	縄文(竪穴住居跡)	G
67	駒坂台Ⅰ		河辺町戸島字北の沢	H1	縄文(土器・石器)	G
68	駒坂台Ⅱ		河辺町戸島字北の沢	H1	縄文前期～後期(石組炉・組石遺構・土器・石器)	G
69	井戸尻台Ⅰ		河辺町戸島字井戸尻台	H9・12	縄文中期集落(竪穴住居跡)、縄文晩期 弥生(土器)	I・N
70	井戸尻台Ⅱ		河辺町戸島字井戸尻台		縄文(石匙・土器)	I
71	上野		河辺町戸島字上野	H9	縄文(土器・石器)、弥生、古代集落(竪穴住居跡)	I・L
72	上野Ⅱ		河辺町戸島字上野		縄文(土坑・土器)	I
73	大堤山		河辺町戸島字大堤山		古代(溝跡・土器)	I
74	蟹沢Ⅰ		河辺町畑谷字蟹沢	H11	縄文(土器・石器)	K
75	未名地		河辺町戸島			
76	山崎山		雄和町田草川字山崎山	H11	縄文(石器)	K
77	山崎山	34-1	雄和町田草川字山崎山		古代(須恵器)	A
78	長者屋敷	34-2	雄和町椿川字長者屋敷		古代(須恵器)、石器	A
79	袖の沢	34-4	雄和町椿川字袖の沢		縄文(土器・石器)	A
80	椿川館	34-5	雄和町椿川字地張山		中世城跡、土器、石器	A・B
81	地張山	34-6	雄和町椿川字地張山		縄文(土器・石器)	A
82	関田	34-7	雄和町椿川字関田		縄文(土器)	A
83	堤根	34-8	雄和町椿川字堤根		縄文(土器)	A
84	平沢	34-9	雄和町平沢字袖又		古代(風字硯・須恵器)	A
85	白山	34-10	雄和町平沢字白山		縄文(石器)	A
86	平沢館	34-11	雄和町平沢字湯の沢		中世城館	A・B
87	小平の柵	34-14	雄和町平尾鳥字小平		湯治場跡	A
88	御倉館	34-15	雄和町平尾鳥字中田		縄文(土器・石器)	A
89	菅生沢柵	34-16	雄和町平尾鳥字長田		中世(井戸跡)	A
90	平尾鳥城	34-17	雄和町平尾鳥字細田		中世城館(建物跡・井戸跡・土塁)	A・B
91	滝の沢Ⅰ		雄和町椿川字滝の沢	S56	縄文前期(土器)	C
92	滝の沢Ⅱ		雄和町椿川字滝の沢	S56	縄文(土器・石器)	C
93	駒坂袋Ⅰ		雄和町椿川字駒坂袋	S56	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑) 縄文前期・後期(土器・石器)	C
94	駒坂袋Ⅱ		雄和町椿川字駒坂袋	S56	縄文晩期(竪穴住居跡)、縄文中期(土器)	C
95	軽井沢A		雄和町椿川字軽井沢	S55	縄文(土器・石器)	E
96	軽井沢B		雄和町椿川字軽井沢	S55	縄文(土器・石器)	E
97	軽井沢C		雄和町椿川字軽井沢	S55	縄文(土器・石器)	E
98	奥椿岱		雄和町椿川字奥椿岱	H10	縄文中期集落(竪穴住居跡・土坑)、縄文後期、晩期 弥生(土器)	J・K・M
99	狐森	1-332	秋田市豊岩小山字狐森		縄文(土器・石器)	A
100	山ノ沢館	1-333	秋田市下浜八田字山野沢		中世城館(郭)	A・B
101	小山館	1-340	秋田市豊岩小山字袖ノ沢		中世城館、石鏃、剥片	A・B
102	強清水	1-341	秋田市下浜八田字強清水	H8	縄文前期(土坑)	A
103	岩の沢	34-3	雄和町下黒瀬字湯野目岩の沢		古代(須恵器)	A
104	岱Ⅰ		河辺町畑谷字岱	H11	縄文(土坑・陥し穴・土器・石器)	O
105	岱Ⅱ		河辺町畑谷字岱	H11	縄文(竪穴住居跡・焼土遺構・土坑)	O
106	岱Ⅲ		河辺町畑谷字岱	H11	縄文(竪穴住居跡・土器埋設遺構・土坑) 平安(竪穴住居跡)	O

と低位の七曲台面からなる。両面とも他の段丘面に比べて新しい。特に岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡が位置する七曲台面は、基準面の低下に対応して上野台面から分岐した段丘面であると考えられる。沖積平野面から遺跡までの比高差は20m前後である。

第２節　歴史的環境(第４図、第１・２表)

岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡の周辺には数多くの遺跡が存在する。特に本遺跡から東４kmには河辺町の七曲台遺跡群が、北５kmには秋田市の御所野台地遺跡群が位置している。それら周辺で確認されている遺跡の位置を第４図に掲げた。最も数が多いのは縄文時代の遺跡であり、中でも中期の遺跡がその大半を占める。晩期がこれに次ぎ、前期・後期は遺構・遺物が僅かに確認されているにすぎない。早期については、遺物が上祭沢遺跡(66)で確認されているのみである。本遺跡と共通する縄文時代の遺構が確認されている遺跡には、岩見川左岸地域において風無台Ⅰ・Ⅱ遺跡(46・47)や石坂台Ⅰ・Ⅱ・Ⅷ・Ⅸ遺跡(50・51・56・57)、松木台Ⅲ遺跡(60)、餅田沢Ⅱ遺跡(62)、上祭沢遺跡(66)、井戸尻台Ⅰ遺跡(69)、上野遺跡(71)、駒坂袋Ⅰ・Ⅱ遺跡(93・94)、奥椿岱遺跡(98)がある。この他の縄文時代の遺跡は41遺跡である。

弥生時代の遺構・遺物が出土している遺跡は、坂の上Ｆ遺跡(16)、湯の沢Ａ・Ｃ・Ｆ・Ｈ・Ⅰ遺跡(19・21・24・26・27)、狸崎Ａ・Ｂ遺跡(32・33)、地蔵田Ａ・Ｂ遺跡(36・37)、風無台Ⅱ遺跡(47)、石坂台Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ遺跡(50・51・54・55・56)、松木台Ⅰ遺跡(58)、井戸尻台Ⅰ遺跡(69)、上野遺跡(71)、奥椿岱遺跡(98)の20遺跡である。

古代の遺跡で集落跡としての性格を持つものは、平安時代の集落が営まれた下堤Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ遺跡(１～４)、深田沢遺跡(28)、野形遺跡(29)、秋大農場南遺跡(35)などがあるが、これらは岩見川の右岸地域の遺跡である。本遺跡の位置する岩見川左岸地域については、松木台Ⅲ遺跡(60)、上野遺跡(71)の２遺跡にとどまり、岱Ⅲ遺跡が３例目となる。

中世以降の遺跡については、第４図上に位置のみを示した。

≪参考文献≫

秋　田　県『秋田県史』考古編　昭和35(1960)年

秋　田　県『土地分類基本調査　羽後和田』昭和50(1975)年

河　辺　町『河辺町史』昭和60(1985)年

〔表１・２－文献Ａ〕秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(中央版)』平成２(1990)年

〔表１・２－文献Ｂ〕秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第86集　昭和56(1981)年

〔表２－文献Ｃ〕秋田県教育委員会『秋田県立中央公園スポーツゾーン地域内遺跡発掘調査報告書 滝ノ沢Ⅰ遺跡 滝ノ沢Ⅱ遺跡 駒坂袋Ⅰ遺跡 駒坂袋Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第92集　昭和57(1982)年

〔表１・２－文献Ｄ〕秋田県教育委員会『七曲台遺跡群発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第125集　昭和60(1985)年

〔表２－文献Ｅ〕秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第126集　昭和60(1985)年

〔表２－文献Ｆ〕秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第150集 昭和61(1986)年

〔表２－文献Ｇ〕秋田県教育委員会『高速交通関連道路整備事業(和田御所野)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 上祭沢遺跡 駒坂台Ⅰ遺跡 駒坂台Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第195集　平成２(1990)年

〔表１－文献Ｈ〕秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅨ古野遺跡』秋田県文化財調査報告書第253集　平成７(1995)年

〔表２－文献Ｉ〕秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第270集　平成９(1997)年

〔表２－文献Ｊ〕秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第291集　平成11(1999)年

〔表２－文献Ｋ〕秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第308集　平成12(2000)年

〔表２－文献Ｌ〕秋田県教育委員会『上野遺跡』秋田県文化財調査報告書第295集　平成12(2000)年

〔表２－文献Ｍ〕秋田県教育委員会『奥椿岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第305集　平成12(2000)年

〔表２－文献Ｎ〕秋田県教育委員会『井戸尻台Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第313集　平成12(2000)年

〔表２－文献０〕秋田県教育委員会『岱Ⅰ遺跡 岱Ⅱ遺跡 岱Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第314集　平成12(2000)年

〔表１－文献Ｐ〕秋田市教育委員会『秋田臨空新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤Ｇ遺跡　野畑遺跡　湯ノ沢Ｂ遺跡』昭和58(1983)年

〔表１－文献Ｑ〕秋田市教育委員会『秋田臨空新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　坂ノ上Ｅ遺跡　湯ノ沢Ａ遺跡　湯ノ沢Ｃ遺跡　湯ノ沢Ｅ遺跡　湯ノ沢Ｆ遺跡　湯ノ沢Ｇ遺跡　湯ノ沢Ｈ遺跡　野形遺跡』昭和59(1984)年

〔表１－文献Ｒ〕秋田市教育委員会『秋田臨空新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤Ｅ遺跡　下堤Ｆ遺跡　坂ノ上Ｆ遺跡　狸崎Ａ遺跡　湯ノ沢Ｄ遺跡　深田沢遺跡』昭和60(1985)年

〔表１－文献Ｓ〕秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　地蔵田Ｂ遺跡　台Ａ遺跡　湯ノ沢Ⅰ遺跡　湯ノ沢Ｆ遺跡』昭和61(1986)年

〔表１－文献Ｔ〕秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　地方遺跡　台Ｂ遺跡』昭和62(1987)年

〔表１－文献Ｕ〕秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤Ｃ遺跡』昭和62(1987)年

〔表１－文献Ｖ〕秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤Ａ遺跡　下堤Ｂ遺跡』昭和63(1988)年

〔表１－文献Ｗ〕秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　狸崎Ｂ遺跡　秋大農場南遺跡』平成４(1992)年

〔表１－文献Ｘ〕秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　狸崎Ｂ遺跡　地蔵田Ａ遺跡』平成５(1993)年

〔表１－文献Ｙ〕秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　地蔵田Ａ遺跡』平成６(1994)年

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

岱Ⅱ遺跡は、ＪＲ奥羽本線和田駅から南西へ７㎞、河辺町畑谷集落の南側台地上に位置する。遺跡がある台地は、雄物川の支流である岩見川の左岸に形成された河岸段丘群のうち中位の段丘(七曲台面)であり、出羽丘陵のほぼ西端にあたる。遺跡の標高は30～31ｍで、北西方向に延びる舌状台地の上に立地している。同じ台地上の約300ｍ東側には岱Ⅰ遺跡(平成11年調査)があり、谷を隔てた100ｍ西側の台地先端部には岱Ⅲ遺跡(平成11年調査)が位置する。

発掘調査前は、林道部分を除く全域が松林に覆われていたが、平成10年４～５月の範囲確認調査を実施する前に切り株を残して伐採された。調査区は、北側から北西側に松林が広がり、西側から南西側は急斜面となって下の沢底に落ち込んでいる。沢底から遺跡までの比高は15ｍ前後である。調査面積の約84％にあたる2,200㎡はすでに平成11年に調査済みであるが、今回の調査区は前回の調査区を南北に分断する、東西に細長い調査区となっている。

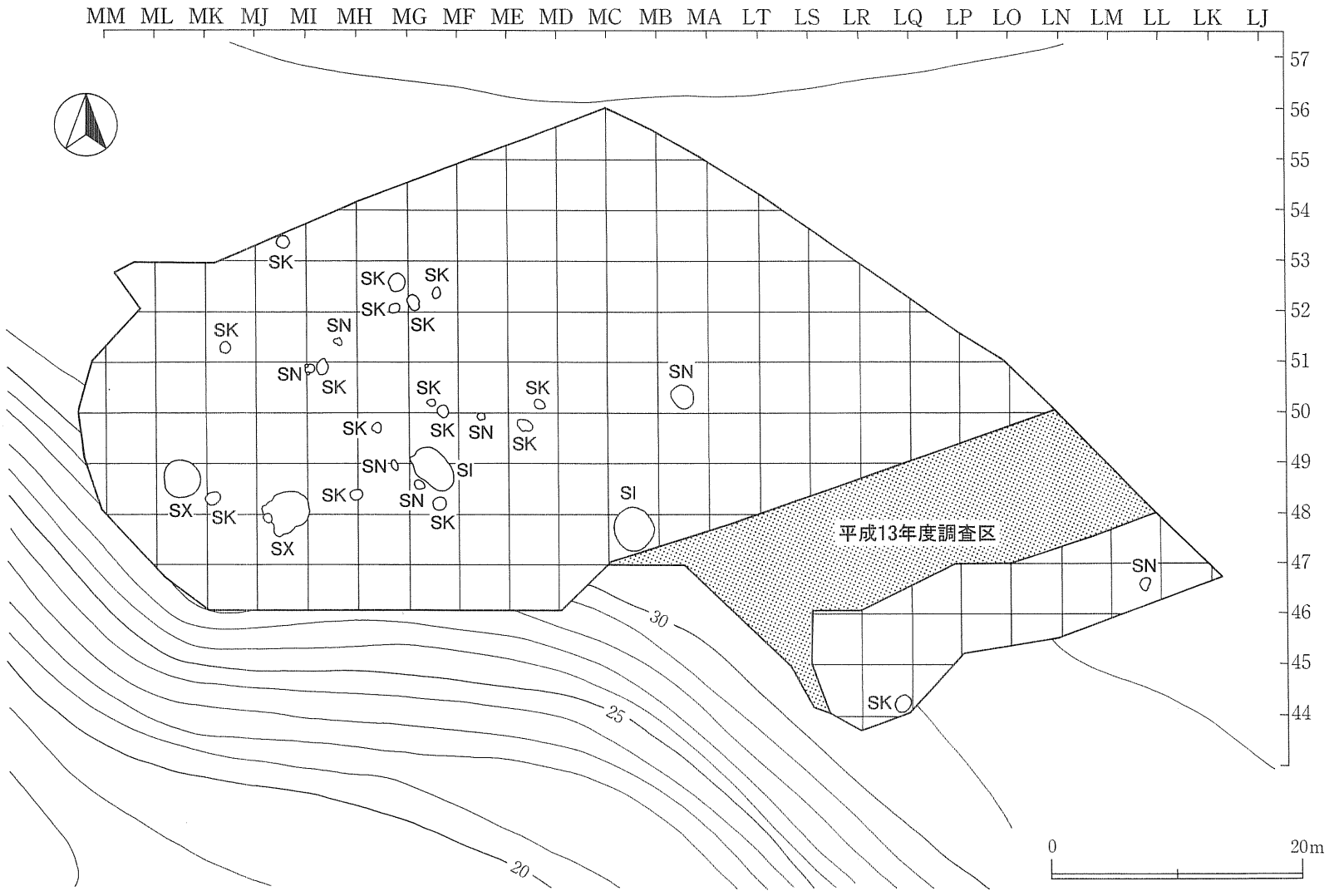
第２節　調査の方法

調査の方法は、日本海沿岸東北自動車道建設工事のセンター杭ＳＴＡ.141＋40を基点として真北方向をとり、４ｍ×４ｍの方眼杭を打設して遺構・遺物の検出地点を把握するグリッド法を採用した。基点には、ＭＡ50の呼称を付し、西に行くに従いＭＢ、ＭＣ、ＭＤ……というアルファベットを、北に行くに従い51、52、53……という二桁の算用数字を用い、これを組み合わせた記号で位置を示した。その際、４ｍ方眼の南東隅に位置する杭を当該グリッドの名称とした。検出した遺構は発見順に略記号および番号を付して区別した。

第３節　調査の経過

前回の調査は平成11年に行われ、その経過については、平成13年３月に刊行された報告書に詳しくまとめられている。

今回の調査の契機は、平成12年12月７日に未調査部分の範囲確認調査を実施し、竪穴住居跡、柱穴様ピットなどの遺構を確認したことにはじまる。平成13年４月23日、調査初日に借り上げ機材の搬入が行われた。午後、遺跡東側の粗掘りを行い調査を開始した。４月27日、昨年の範囲確認調査で検出した竪穴住居跡を確認し、精査を開始した。５月14日、Ⅳ層の掘り下げが終了した(作業員の就労は今日まで)。５月15日、終了写真撮影、コンター図の作成、図面チェック、調査区周辺の清掃を行って全ての遺構精査を終了した。５月16日、借り上げ機材の返却、コンテナハウス用地の清掃、機材の積み込み等を行い、午後、遺跡の引渡しを終え全ての調査を終了した。



第５図　岱Ⅱ遺跡調査範囲

第４章　調査の記録

第１節　基本層序

基本層序は以下の５層に分層した。

Ⅰ層：黒褐色土(10ＹＲ３／２)シルト質土・・・表土　　層厚約15cm

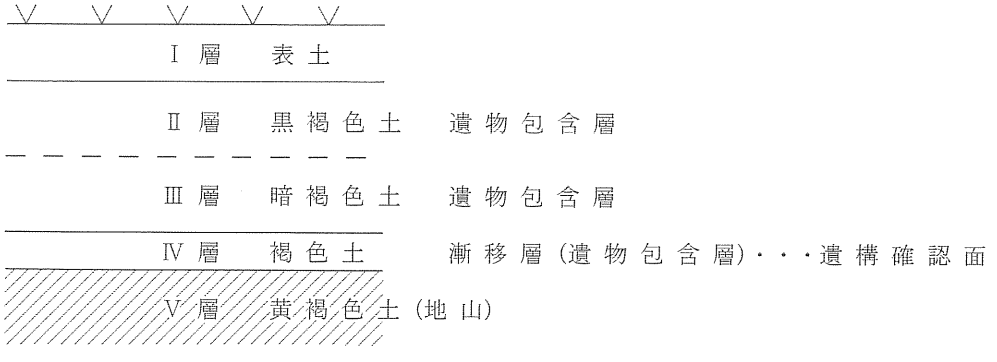
Ⅱ層：黒褐色土(10ＹＲ２／２)シルト質土・・・遺物包含層　　層厚約20cm

Ⅲ層：暗褐色土(10ＹＲ３／３)シルト質土・・・遺物包含層　　層厚約20cm

Ⅳ層：褐 色 土(10ＹＲ４／４)シルト質土・・・漸移層(遺物包含層)　層厚約10cm

Ⅴ層：褐 色 土(10ＹＲ４／６)シルト質土・・・地山

遺物はⅢ層からの出土が多く、縄文時代の包含層と考えられる。遺構はⅣ層面で確認した。前回調査の土層記録と今回の調査結果から、２つの調査区のほぼ全域にわたり同一の層序で土が堆積していたことがわかる。



第６図　基本層序

第２節　検出遺構と出土遺物

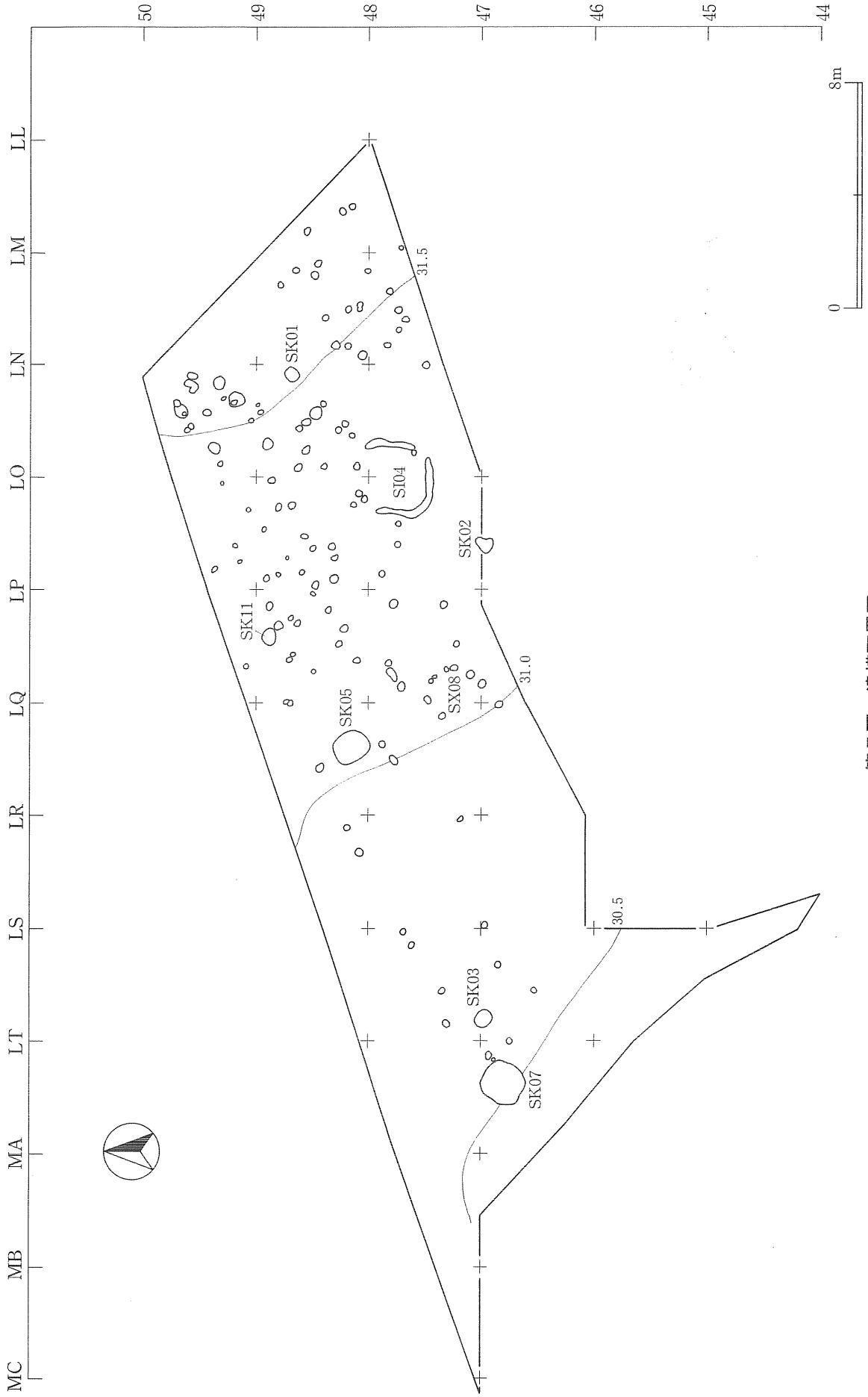
発掘調査の結果、岱Ⅱ遺跡で検出した遺構は以下のとおりである。遺物は縄文時代の土器を中心に整理用コンテナで３箱出土した。

１．竪穴住居跡

１軒検出されたが、遺存状態が悪く具体的な時期については不明である。

ＳＩ04竪穴住居跡(第８図、図版２～４)

調査前年(平成12年)の範囲確認調査時に検出された遺構である。ＬＮ47・48、ＬＯ47・48グリッドに位置し、Ⅴ層で南東部を欠いた「コ」の字状の黒色プランとして確認した。地山面への掘り込みが浅いため住居の壁を確認することはできなかった。確認面における溝の幅は15～30cm、底面までの深さは10cm程である。範囲確認調査では、床面付近で微かに焼土を確認していたが、今回の調査ではそれを確認することができなかった。底面からは楕円形の扁平な軟質の礫(長さ17cm、幅6cm)と焼土塊が出土した。


50
49
48
47
46
45
44
LL
LM
LN
LO
LP
LQ
LR
LS
LT
MA
MB
MC
8m
0
31.5
31.0
30.5
SK01
SI04
SK02
SK11
SK05
SX08
SK03
SK07

第７図　遺構配置図

溝の形や規模から、１辺の長さが３ｍほどの隅丸方形の竪穴住居跡と考えられる。時期は不明である。範囲確認調査で確認した焼土が、地床炉の可能性がある。

２．土坑

６基検出されたがＳＫ01・03以外に時代を限定できるものはなかった。

ＳＫ01(第８図、図版５・６)

ＬＮ48グリッドに位置し、径0.55m・深さ0.17mの不整円形を呈する。Ⅲ層精査中に円形の暗褐色の落ち込みとして確認した。埋土は単一層で人為的堆積と考えられる。西壁の立ち上がり付近から土師器細片が検出された。出土した遺物から、当遺構は古代以降のものと考えられる。

ＳＫ02(第８図、図版６・７)

ＬＯ46・ＬＯ47グリッドに位置し、長軸(北西－南東)0.65m×短軸(北東－南西)0.5m・深さ0.3mの不定形を呈し、底面北東部が一段低くなっている。Ⅲ層精査中に炭化物・焼土粒を含む暗褐色の落ち込みとして確認した。埋土は自然堆積と考えられる。遺構の規模や不定形のプランから、柱穴(柱状の木を抜き取った後に自然堆積作用で土が堆積した)の可能性もある。遺物は出土しなかった。

ＳＫ03(第８図、図版８・９)

ＬＳ46・ＬＳ47グリッドに位置し、長軸(北西－南東)0.68m×短軸(北東－南西)0.6m・深さ0.15mの不整楕円形を呈する。底面中央部は一段深くなっている。Ⅳ層精査中に黒褐色の落ち込みとして確認した。埋土は２層からなる。２層は炭化物、焼土、黄褐色土を含み人為堆積と、１層は混入物がなく自然堆積と考えられる。底面から陶磁器が出土した他に、埋土中からは銅製品の一部が出土した。出土した遺物から、当遺構は近世以降のものと考えられる。

ＳＫ05(第８図、図版９・10)

ＬＱ47・48グリッドに位置し、長軸(北西－南東)1.3m×短軸(北東－南西)1.1m・深さ0.21mの不整楕円形を呈する。Ⅳ層精査中に褐色と暗褐色が交じりあった土の落ち込みとして確認した。遺物は出土しなかった。

ＳＫ07(第９図、図版11・12)

ＬＴ46グリッドに位置し、径1.6m・深さ0.3mの不整円形を呈する。Ⅳ層精査中に暗褐色の落ち込みとして確認した。倒木痕を切って造られている。径５㎝程の円礫が出土した。

ＳＫ11(第９図、図版13)

ＬＰ48グリッドに位置し、長軸(東西)0.6m×短軸(南北)0.5mの楕円形を呈する。Ⅴ層精査中に暗褐色の落ち込みを確認した。埋土中には、地山ブロックがやや多く含まれ、人為堆積と考えられる。

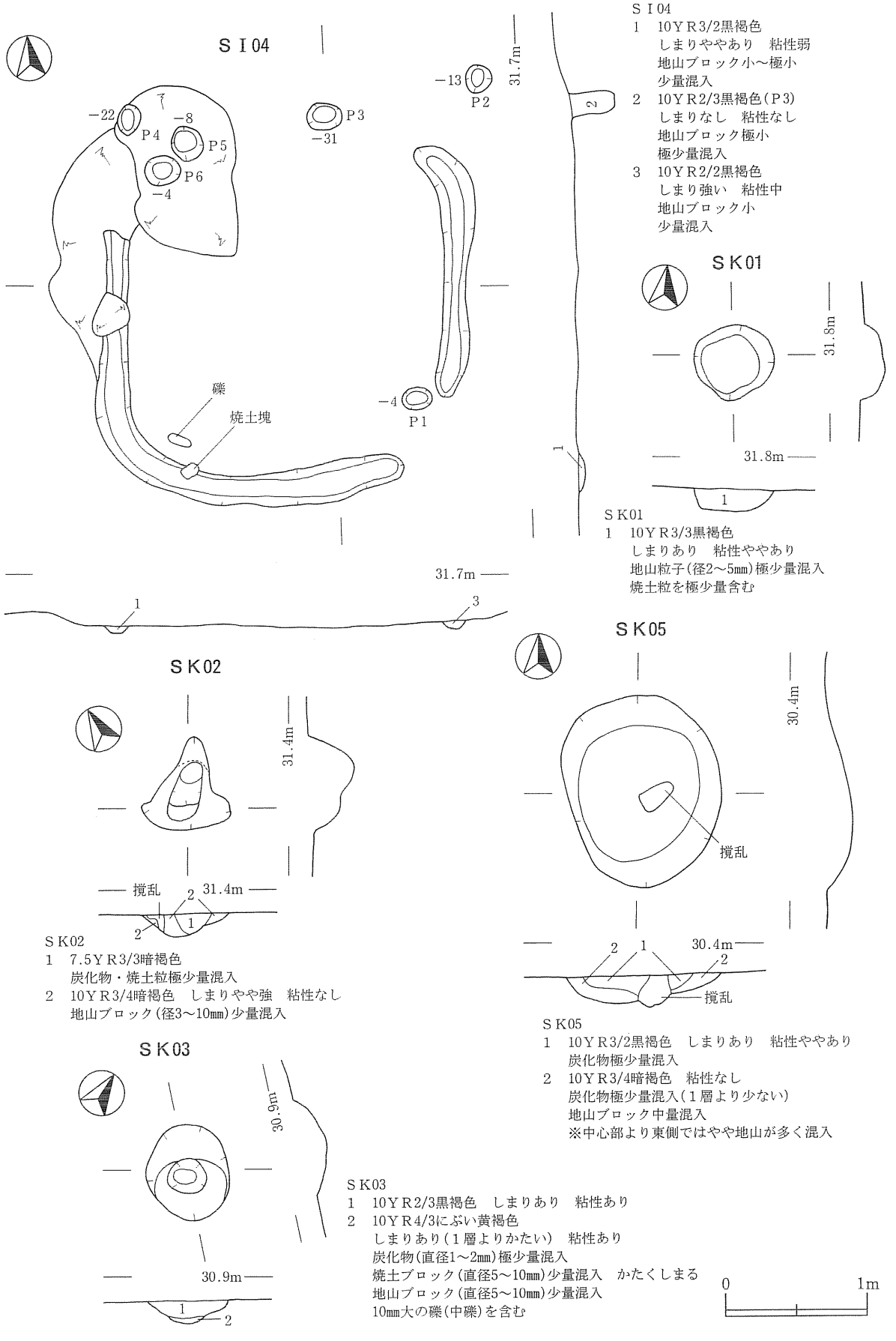
３．性格不明遺構

ＳＸ08(第９図、図版12)

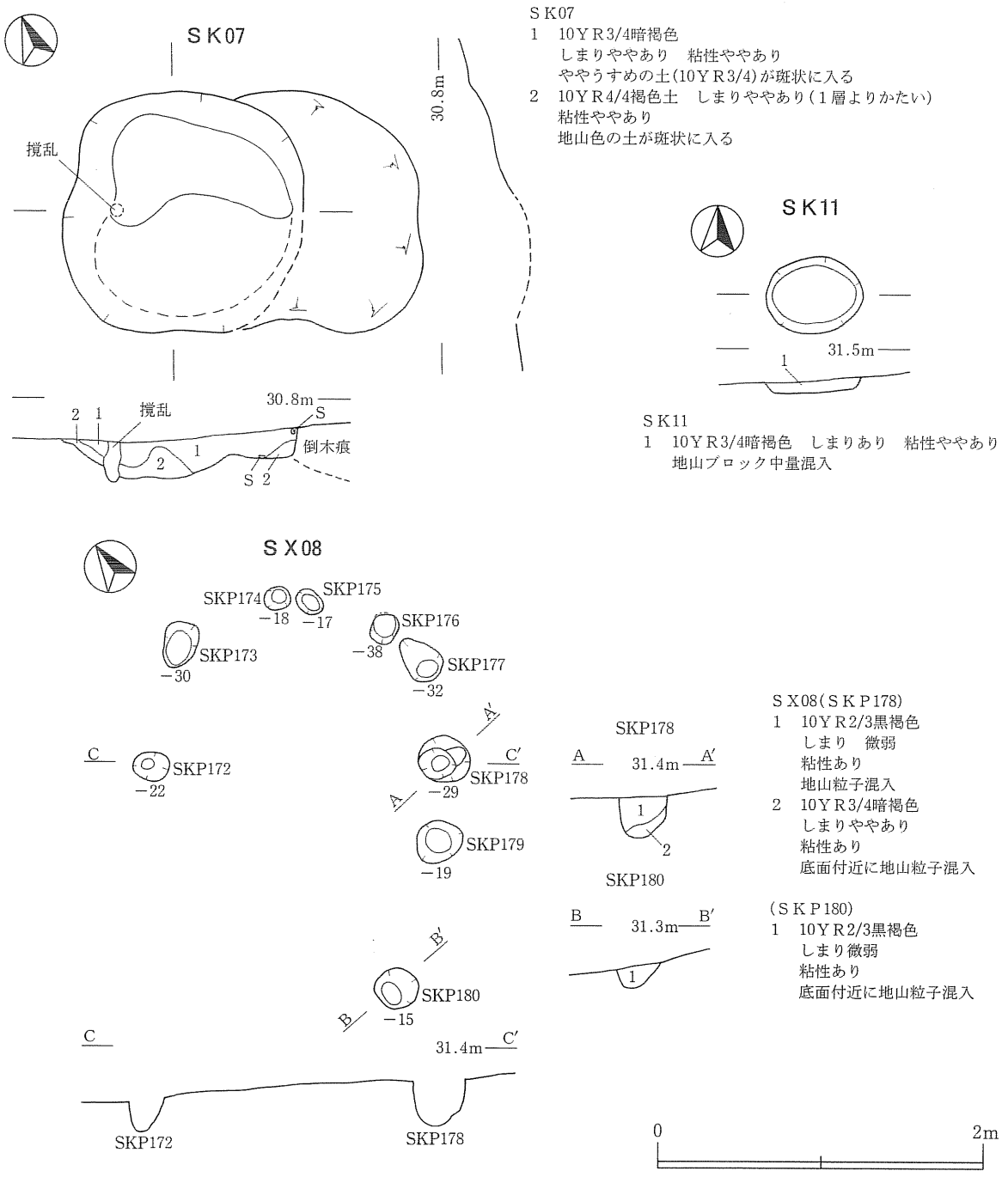
ＬＰ46・47、ＬＱ46・47グリッドに位置し、馬蹄形に配置された９基のピットによって構成される。ＳＫＰ172～ＳＫＰ178間は1.8mを測る。小型の竪穴住居の可能性もあるが、炉が検出されなかったため住居と認定することはできなかった。

４．柱穴様ピット(第10～12図、第３・４表)

調査では118基の柱穴様ピットを検出したが規格や単位を把握することはできなかった。時期についても不明であるが、規模、深さ、位置、土層タイプなどを表３・４の計測表に示した。土層タイプは



第８図　ＳＩ04、ＳＫ01・02・03・05



第９図　ＳＫ07・11、ＳＸ08

埋土の堆積状態と土色の組み合わせで示し、堆積状態はＡ、Ｂに、土色はａ、ｂ、ｃに分類した。なお、ａ、ｂ、ｃはそれぞれⅡ層、Ⅲ層、Ⅳ～Ⅴ層に由来すると考えられる。

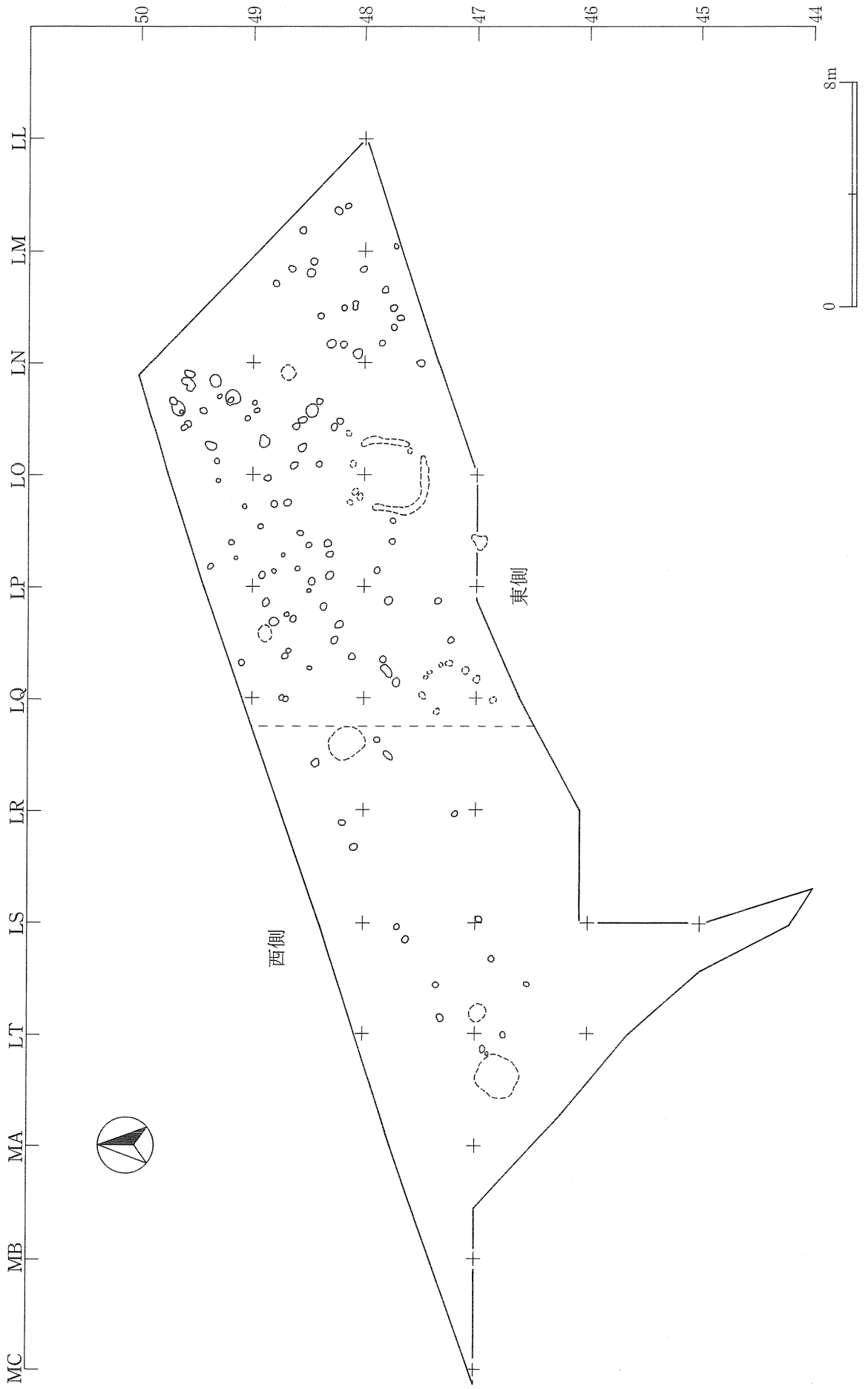
埋土の堆積状態Ａ：埋土(土層断面)に対して垂直方向の分層ラインがひけるもの

Ｂ：埋土(土層断面)に対して水平方向の分層ラインがひけるもの(単一層を含む)

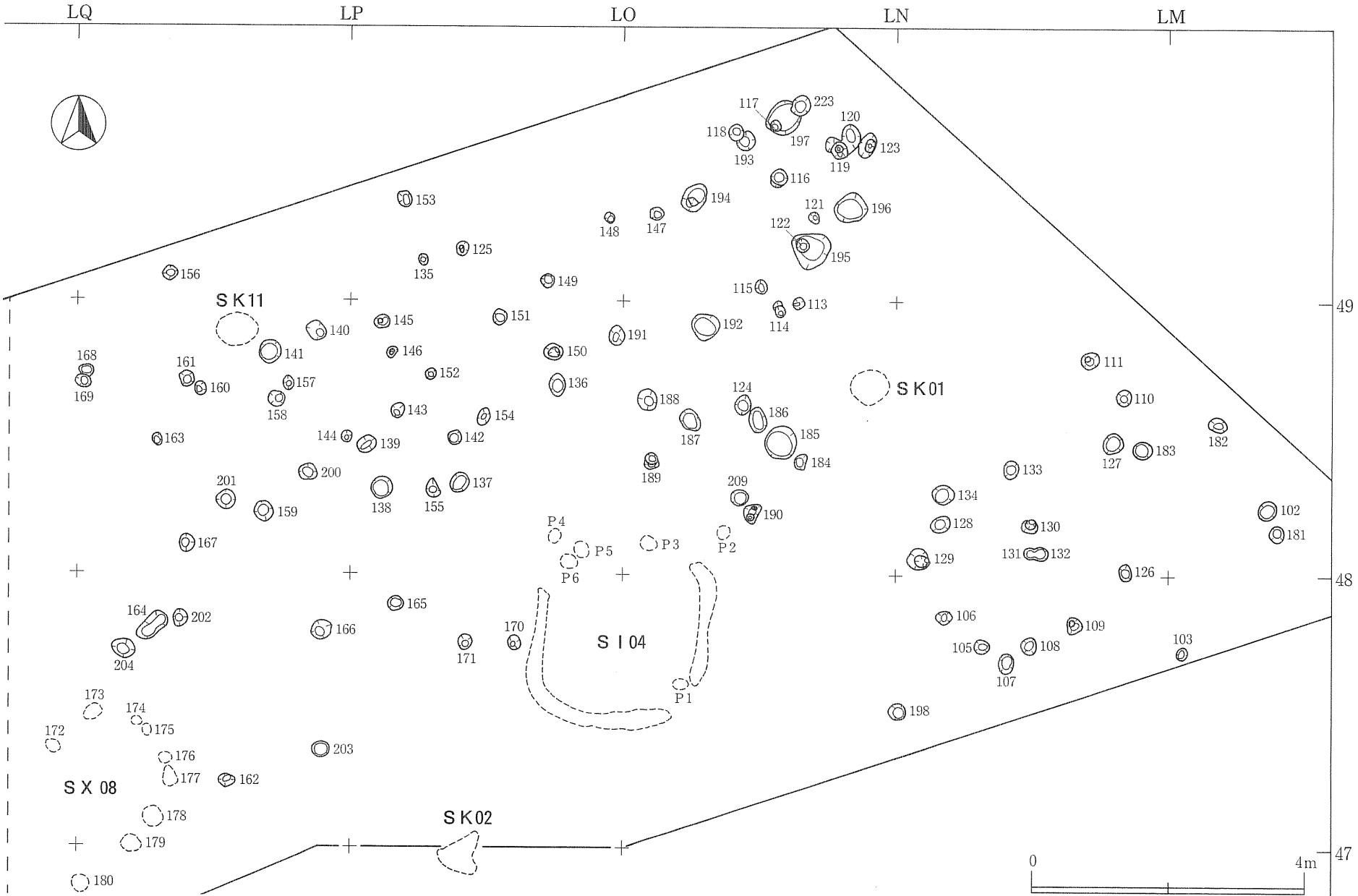
土色　ａ：黒褐色土(Ⅱ層に由来)

ｂ：暗褐色土(Ⅲ層に由来)

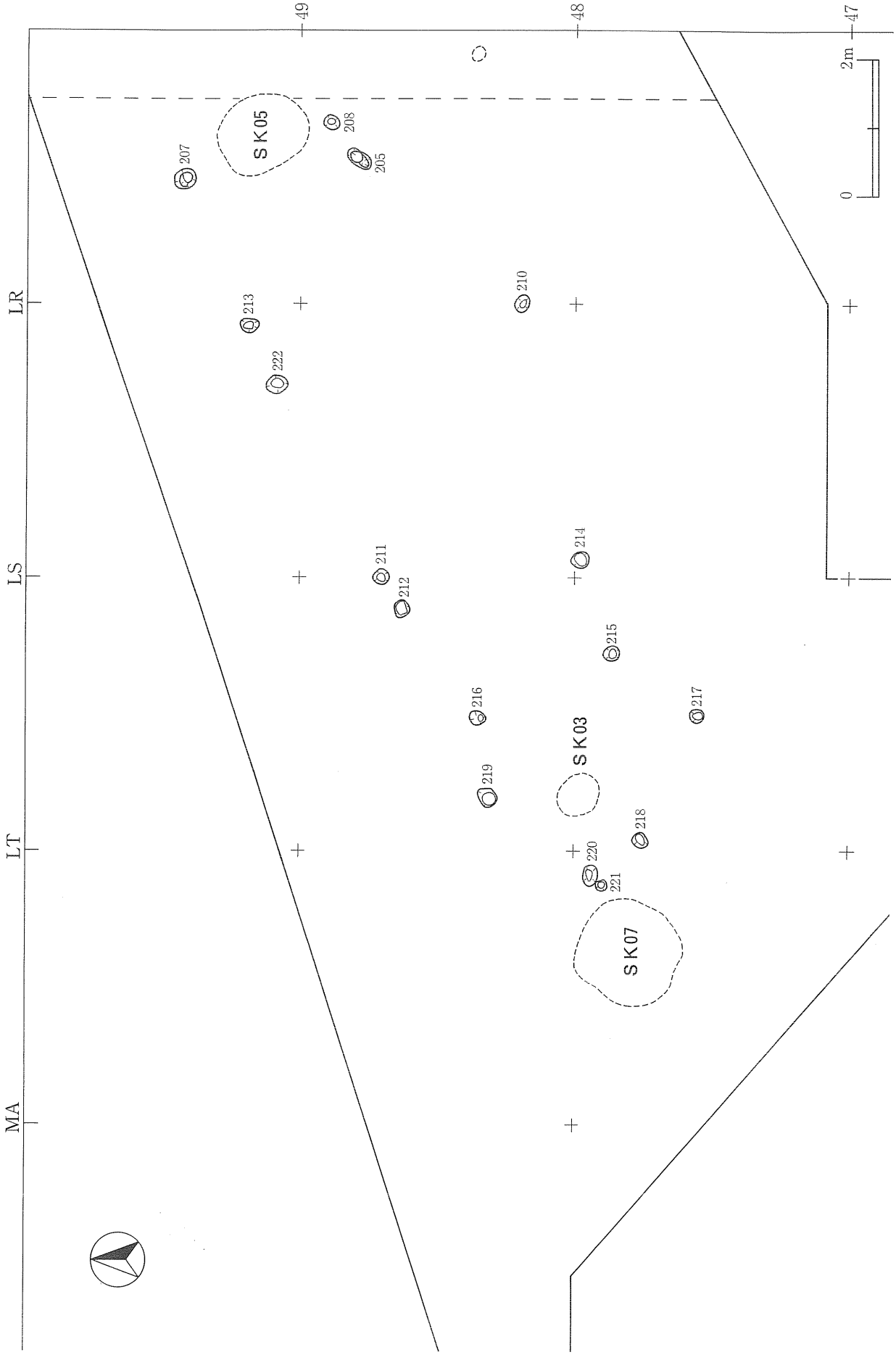
ｃ：褐色土～黄褐色土(Ⅳ～Ⅴ層に由来)



第10図　柱穴様ピット配置図



第11図　柱穴様ピット配置図（東側）



第12図　柱穴様ピット配置図（西側）

第３表　柱穴様ピット(1)

SKP番号	上面径	底面径	深さ	底面標高	グリッド	土層	備考
102	29.0	21.0	18	31.360	LL48	B－b	
103	18.0	13.0	9	31.487	LL47	B－a	
105	22.0	9.0	26	31.313	LM47	B－b	
106	22.0	8.0	25	31.294	LM47	B－b	
107	27.0	18.0	13	31.453	LM47	B－a	
108	22.0	12.0	13	31.452	LM47	B－a	
109	22.0	7.0	10	31.469	LM47	B－b	
110	23.0	11.0	27	31.235	LM48	B－a	
111	21.0	6.0	21	31.307	LM48	A－a・b	
113	18.5	10.5	12	31.456	LN49	B－a・c	
114	23.0	6.0	32	31.247	LN49	B－a・c	
115	20.5	12.0	13	31.426	LN49	B－a・c	
116	17.0	10.0	39	31.168	LN49	A－b	
117	17.0	9.0	16	31.378	LN49	B－a・b	
118	24.0	9.5	22	31.316	LN49	B－b	
119	22.0	3.5	24	31.305	LN49	B－a・c	
120	36.5	20.0	16	31.387	LN49	B－a	攪乱あり
121	17.5	7.0	15	31.408	LN49	B－b	
122	21.0	10.0	19	31.369	LN49	B－b	
123	37.0	6.0	29	31.270	LN49	B－b	
124	26.0	15.0	25	31.215	LN48	B－a・b	炭化物極少量
125	18.0	3.5	16	31.283	LO49	B－b	
126	22.0	18.0	15	31.435	LM48	B－a	炭化物少量
127	27.0	21.0	14	31.402	LM48	B－a	
128	25.0	15.0	31	31.244	LM48	B－b	
129	30.0	6.0	24	31.374	LM48	B－a	
130	19.0	6.0	17	31.426	LM48	B－b	
131	17.0	12.0	15	31.439	LM48	B－a	切り合い
132	20.0	14.0	18	31.407	LM48	B－a	新旧不明
133	24.0	10.0	24	31.343	LM48	B－a	
134	31.0	18.0	30	31.285	LM48	B－a	
135	16.5	9.0	13	31.287	LO49	B－a	焼土粒少量
136	29.0	20.0	11	31.335	LO48	B－b	
137	30.0	25.0	14	31.342	LO48	B－b	
138	30.0	24.0	16	31.315	LO48	B－a	
139	27.0	19.0	13	31.324	LO48	B－b	
140	30.0	13.0	24	31.210	LP48	B－a	
141	31.0	25.0	15	31.294	LP48	A－a	
142	20.0	14.0	16	31.300	LO48	B－a	
143	22.0	5.0	12	31.351	LO48	B－a	
144	15.0	5.0	26	31.190	LP48	B－a	
145	25.0	9.0	11	31.345	LO48	B－a・b	
146	15.0	3.0	17	31.311	LO48	B－a・b	炭化物極少量
147	19.0	11.5	15	31.368	LN49	B－a	
148	14.5	9.5	15	31.368	LN49.LO49	B－a	
149	18.0	11.5	32	31.135	LO49	B－a	
150	13.0	5.0	23	31.225	LO48	A－a・b	
151	19.0	9.0	22	31.231	LO48	B－a・c	炭化物極少量
152	15.0	8.0	9	31.379	LO48	B－a	炭化物極少量
153	20.0	17.0	11	31.327	LO49	B－b	確認面に炭化物極少量
154	25.0	10.0	11	31.346	LO48	B－a	
155	31.0	11.0	15	31.325	LO48	B－a・c	炭化物極少量
156	20.0	15.0	13	31.323	LP48	B－a	
157	20.0	7.5	15	31.282	LP48	B－a	炭化物極少量
158	22.0	10.5	19	31.243	LP48	B－a	炭化物極少量
159	30.5	16.5	14	31.252	LP48	B－a・b・c	
160	17.0	7.5	14	31.261	LP48	A－a・c	
161	23.0	10.5	15	31.244	LP48	B－a・c	
162	24.5	10.0	25	31.040	LP47	B－a	炭化物極少量

第４表　柱穴様ピット(2)

SKP番号	上面径	底面径	深さ	底面標高	グリッド	土層	備考
163	17.0	11.5	15	31.200	LP48	注記不明	
164	54.0	43.0	16	31.146	LP47	B－a・c	長方形の穴
165	23.0	15.5	15	31.269	LO47	B－a	
166	26.0	12.5	40	31.016	LP47	B－a・b・c	炭化物極少量
167	20.5	12.0	11	31.249	LP48	注記不明	
168	20.5	15.0	24	31.074	LP48	注記不明	
169	22.0	11.0	17	31.134	LP48	注記不明	
170	19.5	7.5	13	31.306	LO47	A－a・c	炭化物極少量
171	18.5	7.0	25	31.195	LO47	A－a・c	焼土粒極少量
172	20.0	9.0	22	30.886	LQ47	注記不明	SX08
173	29.0	21.0	30	30.897	LP47	注記不明	SX08
174	16.0	8.5	18	31.065	LP47	注記不明	SX08
175	17.5	11.5	17	31.080	LP47	注記不明	SX08
176	18.5	13.5	38	30.870	LP47	注記不明	SX08
177	29.5	11.5	32	30.925	LP47	注記不明	SX08
178	30.5	12.0	29	30.930	LP47	B－a・b	SX08
179	30.0	14.0	19	31.006	LP47	注記不明	SX08
180	27.5	10.0	15	30.930	LP46	B－a	SX08
181	22.0	13.5	15	31.352	LL48	B－b	
182	26.0	14.0	13	31.347	LL48	A－a・b	炭化物極少量
183	26.0	13.0	17	31.822	LM48	B－a・b	
184	21.0	13.5	12	31.380	LN48	A－b・c	
185	46.0	36.0	10	31.406	LN48	A－a・c	
186	35.5	28.5	13	31.357	LN48	B－b・c	楕円形の穴
187	32.5	29.5	12	31.365	LN48	B－b	
188	27.5	13.5	15	31.318	LN48	B－b・c	
189	22.0	10.0	12	31.339	LN48	B－b・c	
190	27.0	4.0：2.0	15	31.370	LN48	A－a・b	炭化物極少量
191	27.0	14.5	16	31.309	LO48	A－a・c	
192	42.5	32.5	10	31.379	LN48	A－a・c	
193	37.0	15.5	16	31.290	LN49	B－c	
194	42.0	28.0	26	31.207	LN49	A－a・b	
195	57.0	43.5	10	31.356	LN49	B－c	
196	47.0	37.5	10	31.365	LN49	B－b・c	
197	55.0	38.5	11	31.348	LN49	B－b・c	
198	25.0	17.0	7	31.406	LM47	B－c	
200	25.0	15.5	9	31.225	LP48	B－b	
201	26.0	14.0	8	31.210	LP48	B－c	
202	22.0	10.0	10	31.076	LP47	B－b	
203	23.5	19.0	6	31.185	LP47	B－c	炭化物極少量
204	32.5	13.5	13	31.006	LP47	B－a	
205	38.5	21.0	24	30.833	LQ47	A－a・b	
207	31.5	14.0	21	30.923	LQ48	B－a	
208	22.0	13.0	18	30.944	LQ47	B－a	
209	26.0	19.0	27	31.215	LN48	B－a	
210	23.5	13.0	15	30.714	LR47	B－b・c	
211	21.0	13.5	12	30.723	LS47	B－b・c	
212	26.5	19.5	32	30.518	LS47	B－b・c	
213	27.0	16.0	17	30.725	LS48	B－a・b	
214	24.0	19.5	30	30.468	LR47	B－a・b	
215	22.5	14.5	18	30.502	LS46	A－a・c	
216	21.5	7.5	17	30.584	LS47	A－b・c	
217	20.0	12.5	26	30.394	LS46	B－a・b	
218	24.5	16.5	24	30.390	LS46	B－b	
219	31.5	20.5	26	30.469	LS47	A－b・c	
220	28.0	17.0	28	30.465	LT46	B－b	
221	17.5	8.0	15	30.549	LT46	B－c	
222	29.5	17.0	22	30.637	LS48	A－a・b	
223	29.5	17.0	30	31.177	LN49	B－b・c	

※上面径・底面径・深さにおける単位はcm、底面の標高における単位はmである。

第３節　遺構外出土遺物

主な出土遺物は縄文土器、石器、須恵器などである。

１．土器(第13図、図版14)

縄文土器はＡ～Ｆに分類した。出土層位は、１～13がⅢ層、14・16が範囲確認調査の排土、15・22がⅡ層、17がⅣ層、18・20がⅢ～Ⅳ層、19がⅡ～Ⅲ層、21がⅠ～Ⅱ層である。なお、14・16は排土の特徴から本来はⅡ～Ⅲ層に包含されていたと考えられる。

Ａ類：撚糸文が施されるもの。(１～13・17)

１～12は深鉢形土器であり同一個体と考えられる。１は口縁に波状の小突起をもつ。地文としてＲ原体による縦位～斜位の撚糸文が施される。口縁部では器表面を押さえつけるような調整が施されているため、地文の条は潰れ気味になり不明瞭になっている。その後、波頂部から幅約３㎜の沈線が、口唇部へ沿う方向(１)と下方(２)に施される。沈線は雑で、交点でははみ出しが多く見られる。沈線による区画内に磨消し手法は見られない。口唇の断面は波頂部を除き、内面に向け鋭角に整形されている。胎土には砂礫を多く含み、金雲母も混在している。７は胴中央部～下半部にかけての破片である。横位の沈線は口縁部から垂下する鋸歯状の沈線と連結すると考えられる。13はＲ原体による斜位の撚糸文が施される。胎土には砂礫を多く含む。17は胴部下端の破片である。原体は不明であるが絡状体の回転圧痕文が施される。砂礫を多く含み、金雲母も混在している。

Ｂ類：斜行縄文が施されるもの。(15・16)

15、16はＬＲ原体の縦位回転による斜行縄文が施される。16は胎土に砂礫を多く含む。

Ｃ類：櫛目状の条線文が施されるもの。(14)

14は櫛目状の条線が縦位に施される。胎土には砂礫を多く含む。

Ｄ類：無文。(18)

18はやや外反する無文の口縁部で口唇部は上端から外側にかけては丸みを帯びる。内側は斜めに整形され、焼成は良好である。

Ｅ類：頸部に一条の沈線が施されるもの。(19)

19は口唇部に交互の刻みが施され、頸部には太く明瞭な一条の沈線がある。胴部にはＬＲ原体の横位回転による斜行縄文が施される。

Ｆ類：その他。(20)

20は底部に一条の沈線が施される。大粒の砂礫を多く含む。左の線状の空白は、破損部分である。

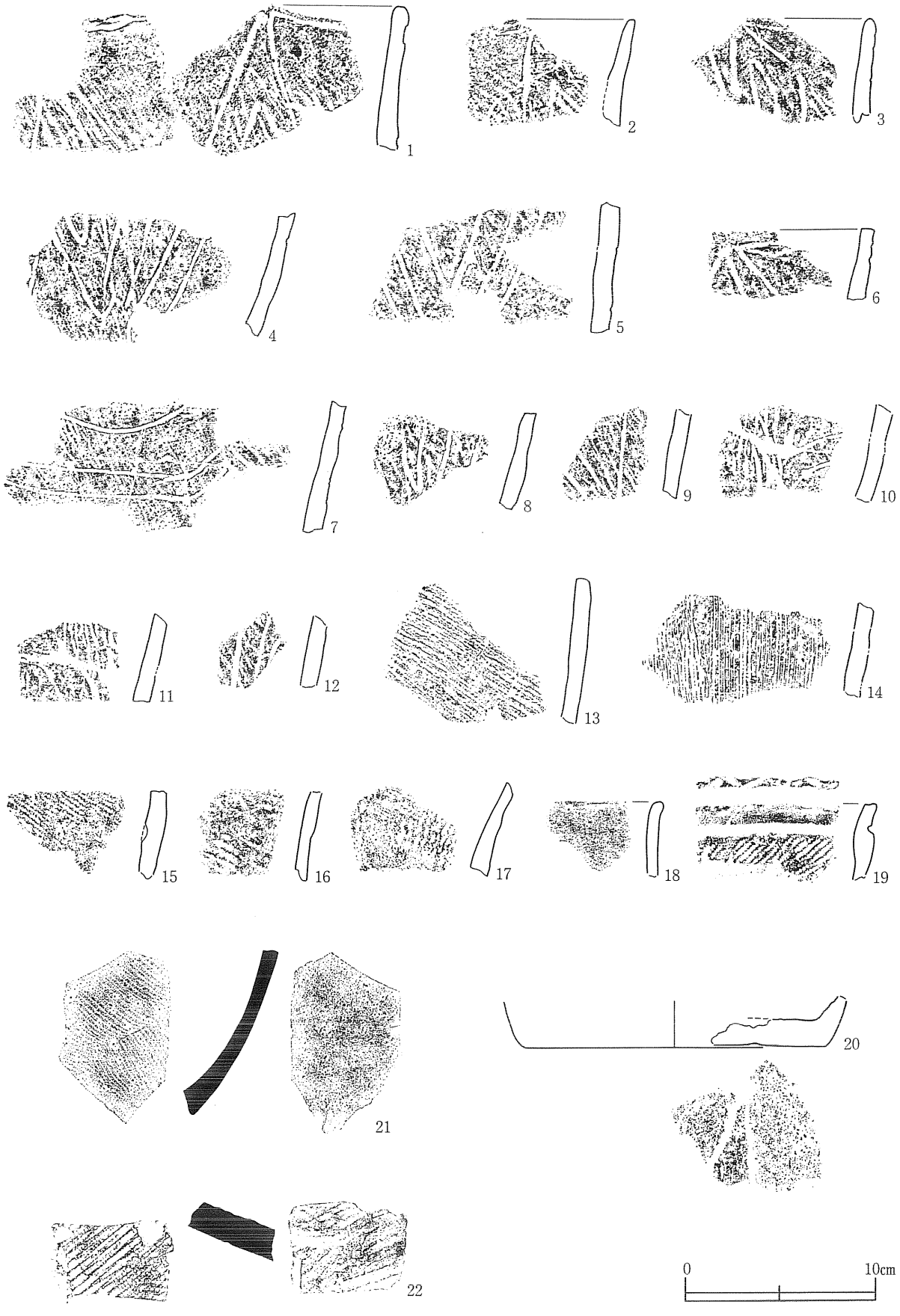
以上の遺物で時期が特定できるものは、１～14で後期初頭～前葉に位置付けられる。

須恵器(21・22)

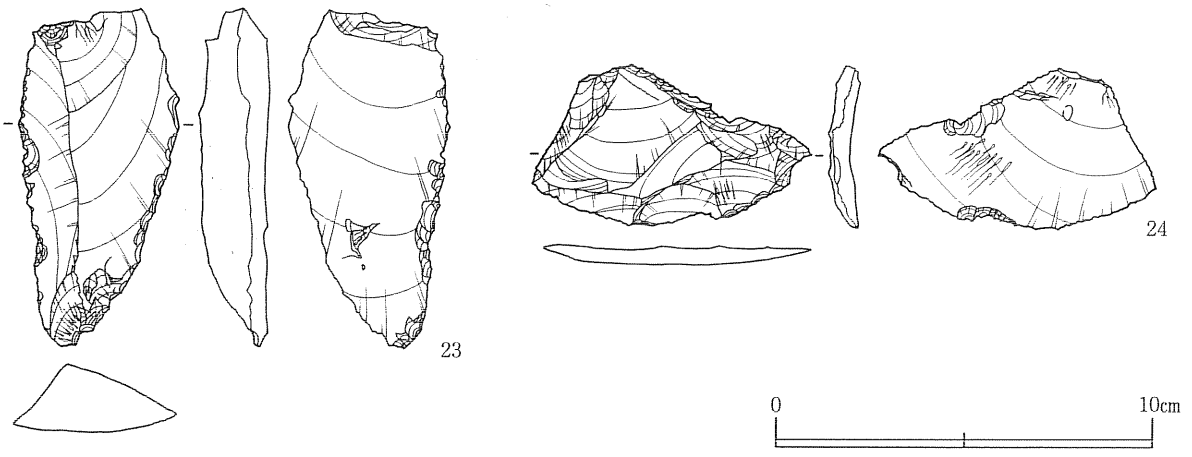
21は壺の胴部～底部付近、22は甕の胴部である。21は外面に横位のケズリ、内面にはカキ目が見られる。22は外面にタタキ目、内面には当て具痕が見られる。

２．石器(第14図、図版14)

23は縦長剥片を素材にした削器である。両側縁に粗い調整が施される。長さ9.0㎝、幅4.3㎝、厚さ1.9㎝、重さ64.7ｇである。24は横長剥片を素材とした削器で刃部両端に丁寧な調整が施される。長さ4.3㎝、幅7.3㎝、厚さ0.8㎝、重さ16.2ｇである。石質はともに頁岩である。



第13図　遺構外出土土器



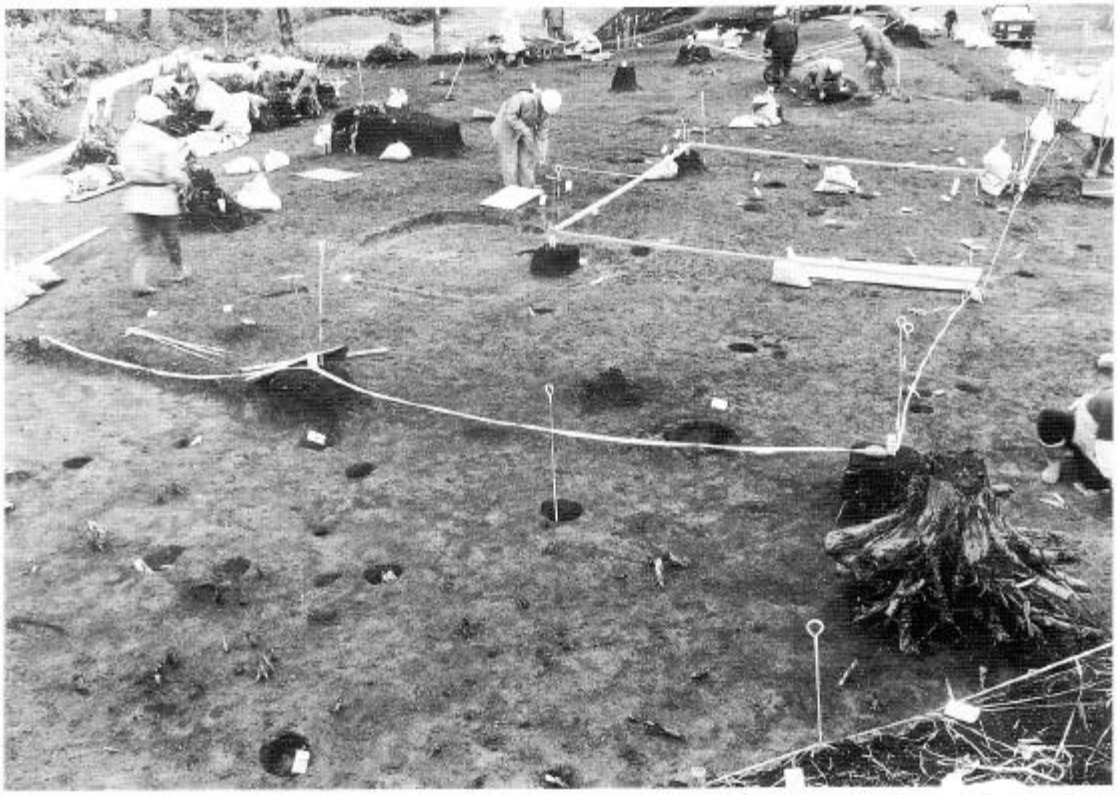
第14図　遺構外出土石器

第５章　まとめ

今回の調査では、竪穴住居跡、土坑、柱穴様ピットなどが検出された。このうち、竪穴住居跡は当初、床面の溝の存在から古代の遺構と考えていた。ところが、カマドが検出されていない点や当遺跡からは前回の調査も含めて古代の遺物がほとんど確認されていないことから、他の時代に属する可能性もあると考え類例を調査した。その結果、諏訪台Ｃ遺跡のＳＩ68・76と同様のプランをもつ遺構と判断した。時期はＳＩ68が縄文時代後期前葉である。前回の岱Ⅱ遺跡調査では縄文時代中期末から後期初頭にかけて集落が継続されたことが明らかになっているが、今回の調査でも、最も多く出土した遺物は当該期の土器であり、前回の調査結果を裏付けるものとなっている。以上から、この竪穴住居は縄文時代の遺構の可能性も考えられるが、現段階での時期の特定は避けることにする。

今回の調査結果から、岱Ⅱ遺跡の中心は前回の調査区である台地平坦面の西縁辺部にあることがわかる。深い沢を挟んで西に約100m離れた岱Ⅲ遺跡は、同じく台地平坦面に位置するほぼ同時期の遺跡である。ここでは台地の先端部付近からも竪穴住居跡が見つかっているため、岱Ⅱ遺跡も北西に延びる台地の平坦面に沿ってさらに調査区外に居住区域が広がっていることが推測される。今後、２つの遺跡の遺構・遺物を比較することにより、居住区域の推移が明らかになってくると考えられる。

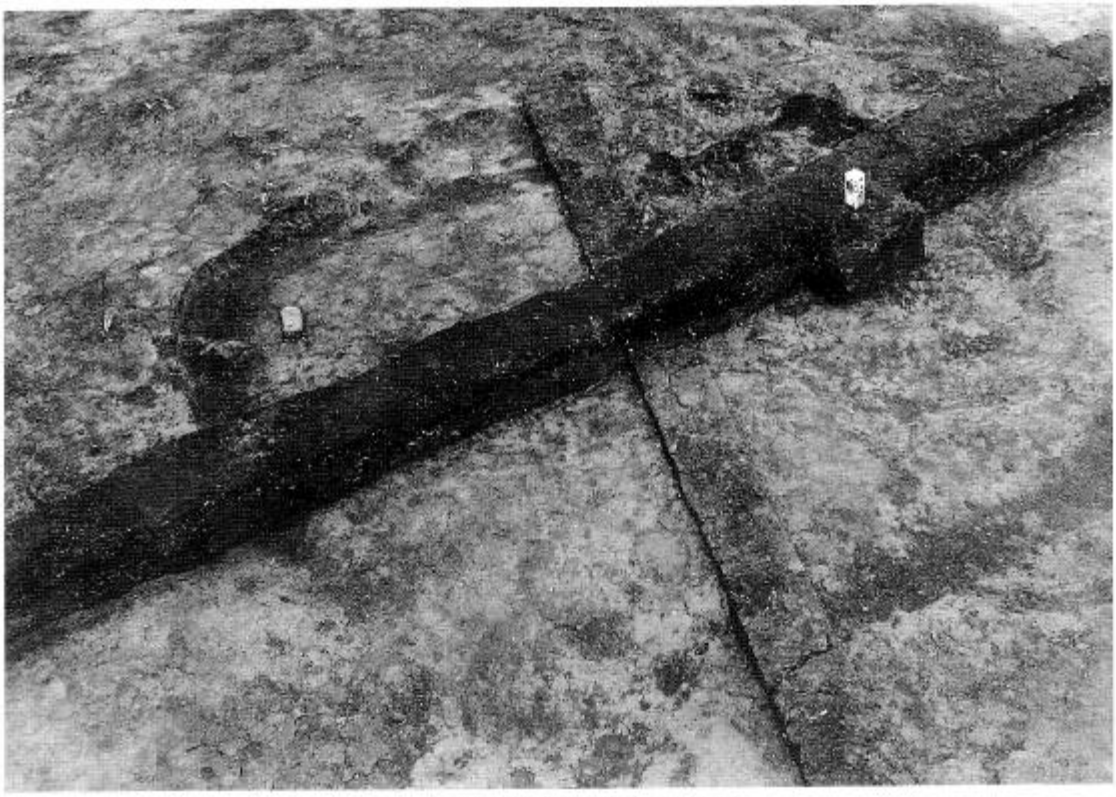
1　岱Ⅲ遺跡からの遠景(西一東)



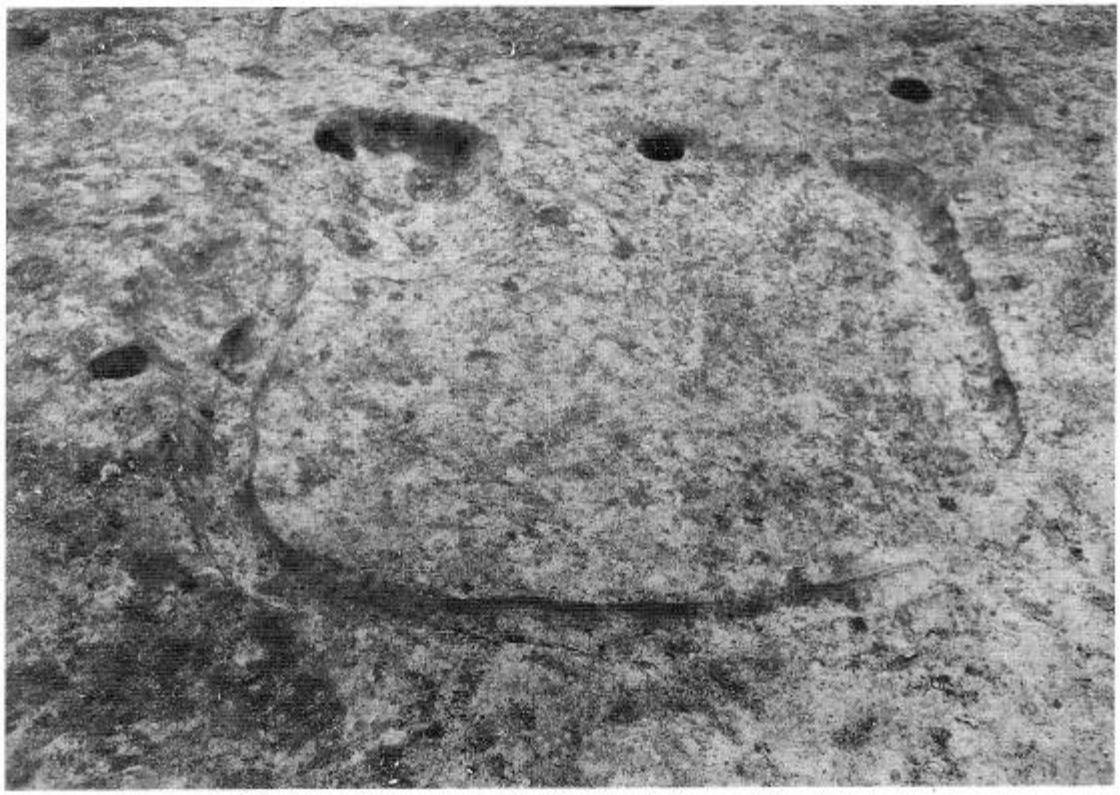
2　調査状況(北東一南西)

図版2

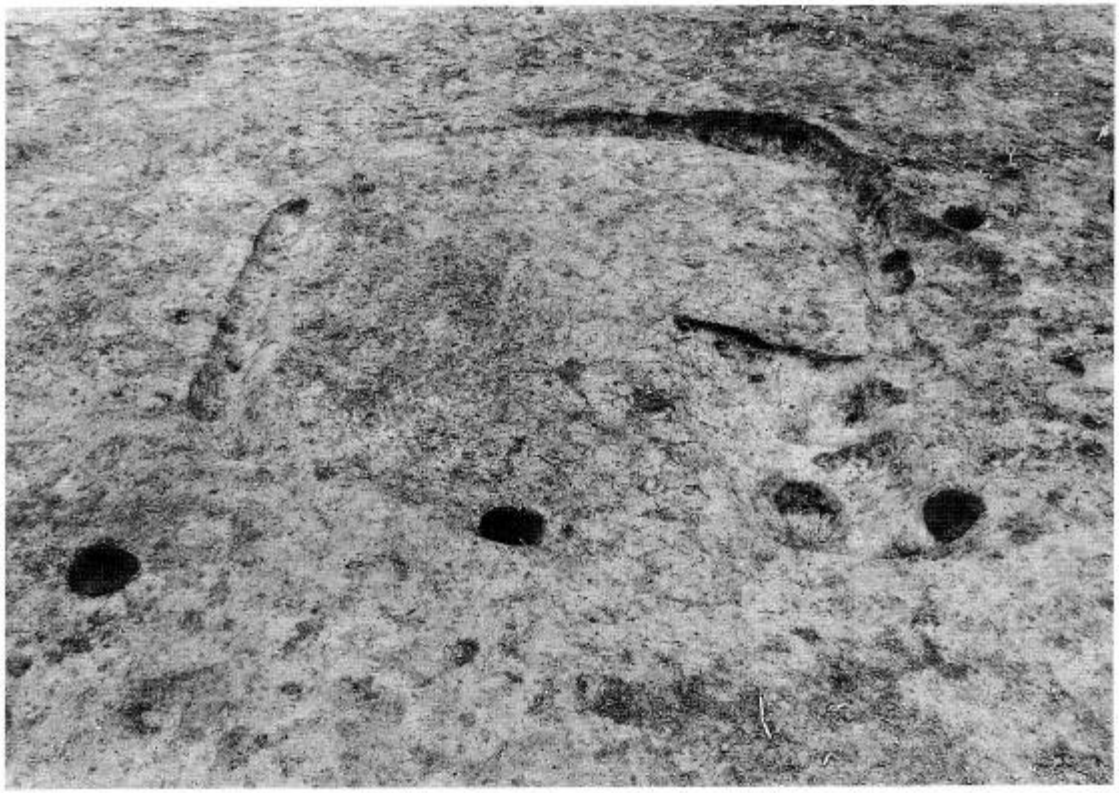
1　調査終了状況(南東ー北西)



2　ＳＩ04確認状況(南東ー北西)



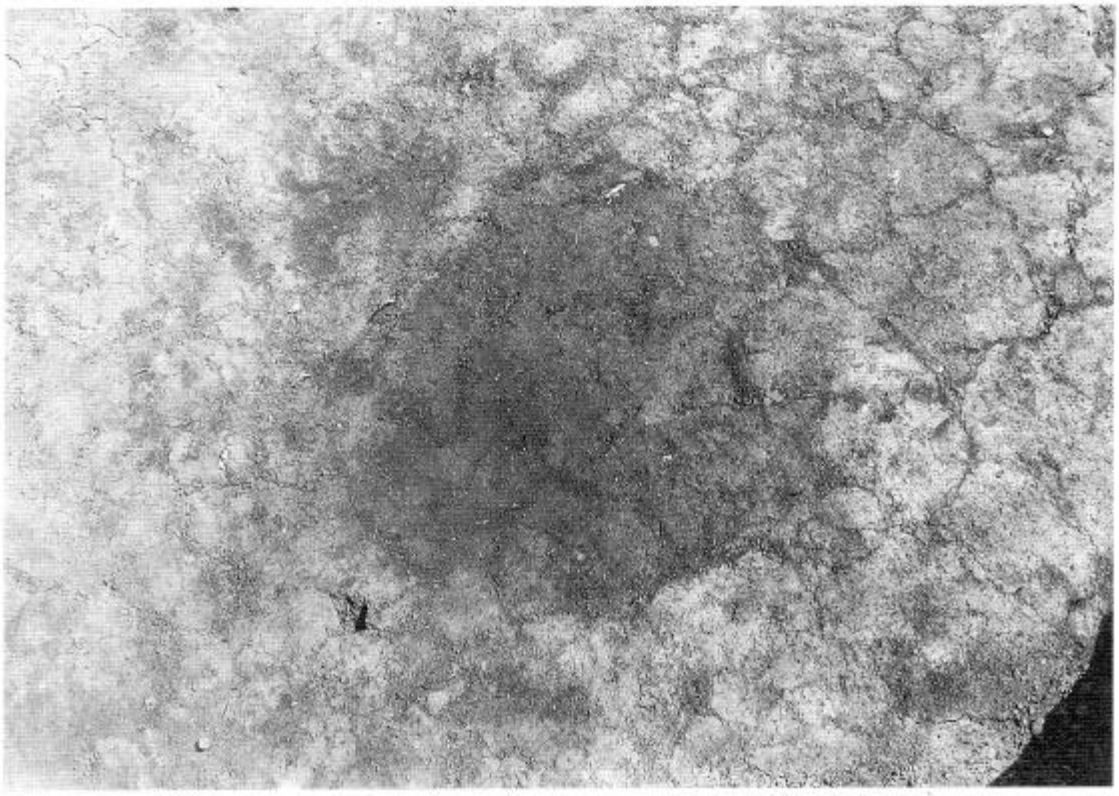
1　ＳＩ04完掘状況(南一北)



2　ＳＩ04完掘状況(北一南)

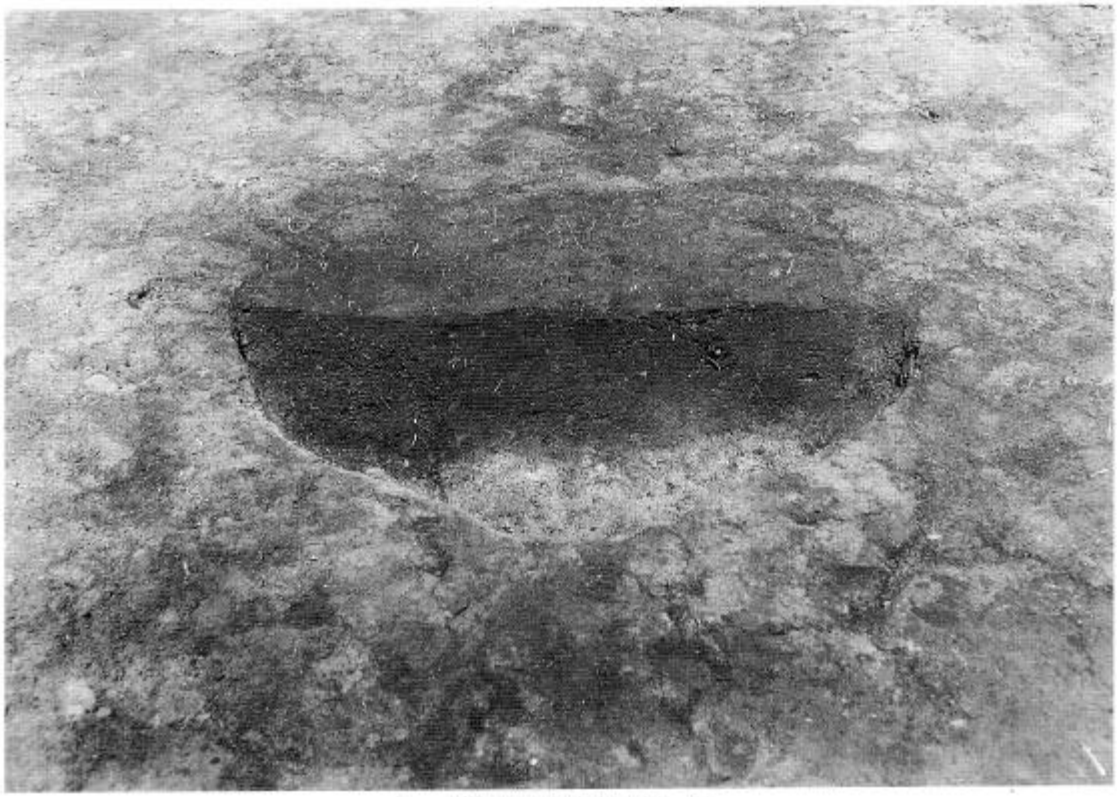
1　ＳＩ04完掘状況(東一西)

2　ＳＩ04礫・焼土塊出土状況(南一北)

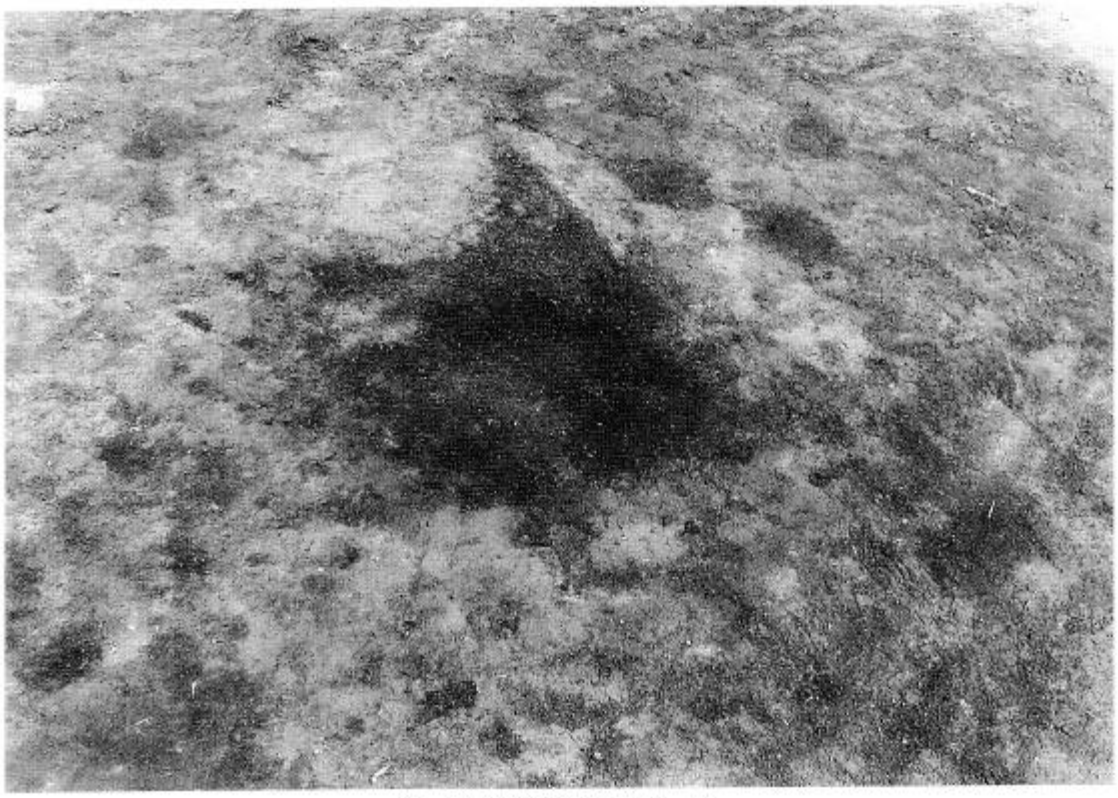


1　ＳＫ01確認状況（南西一北東）

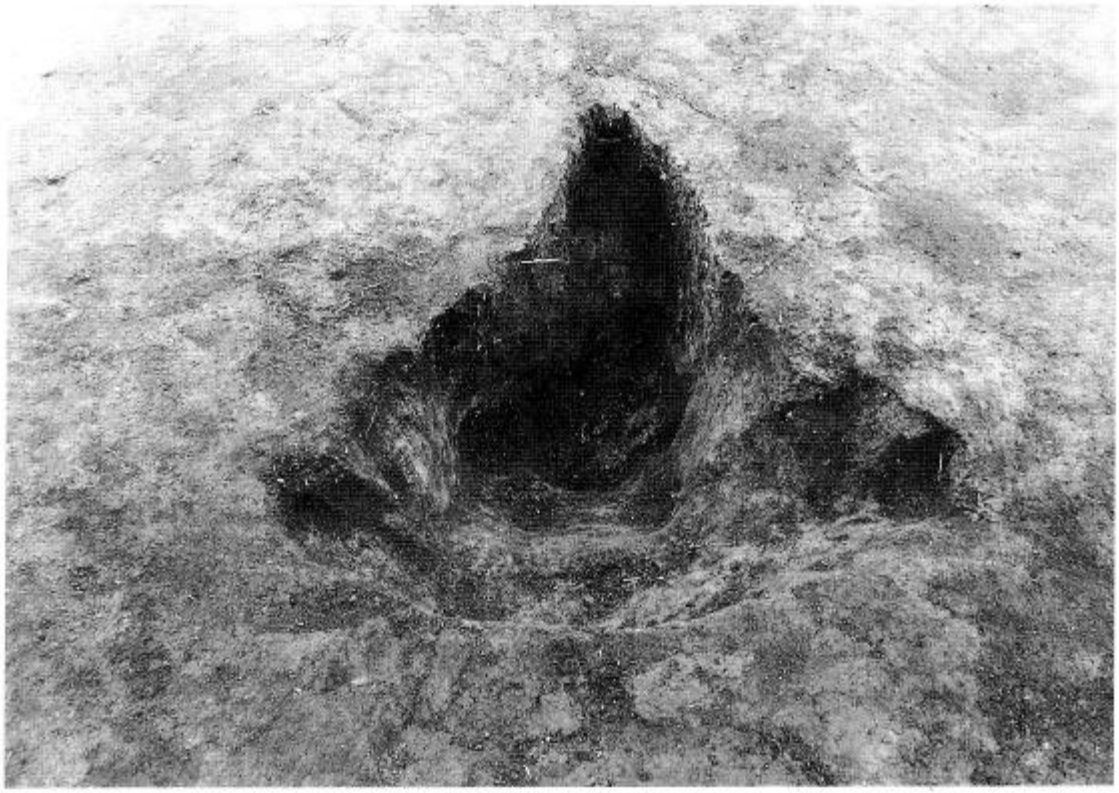
2　ＳＫ01完掘状況（南一北）



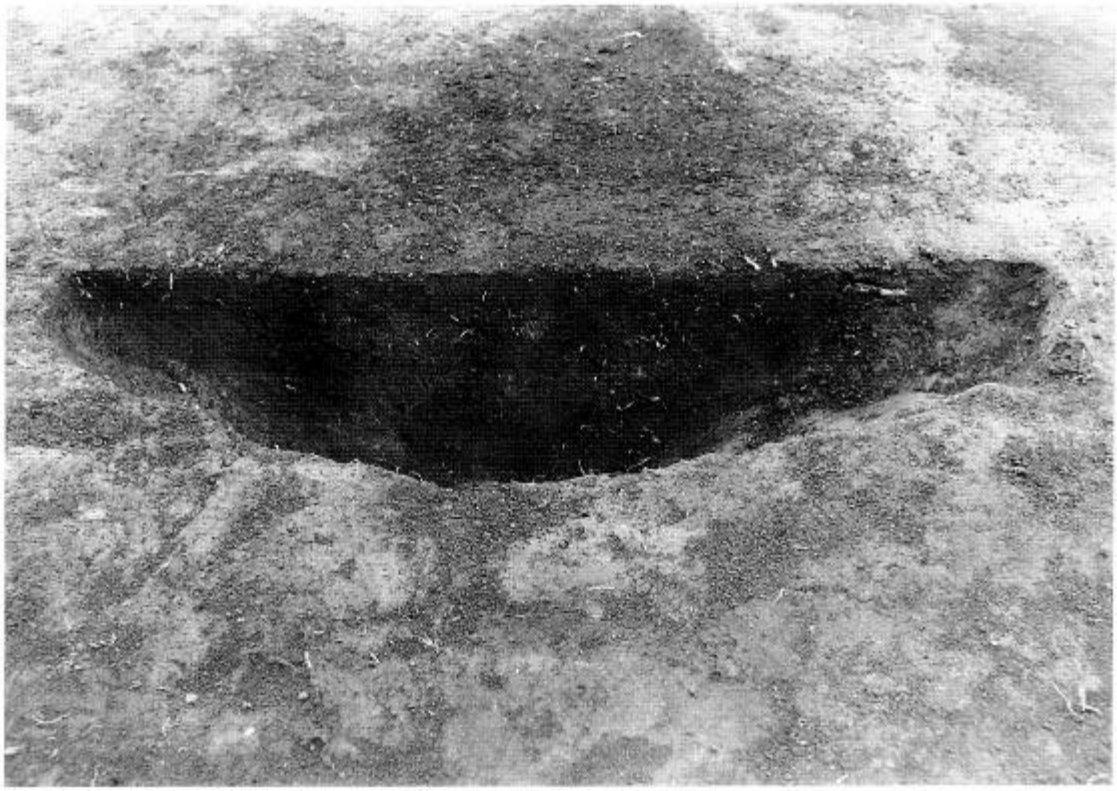
1　ＳＫ01土層断面（南一北）



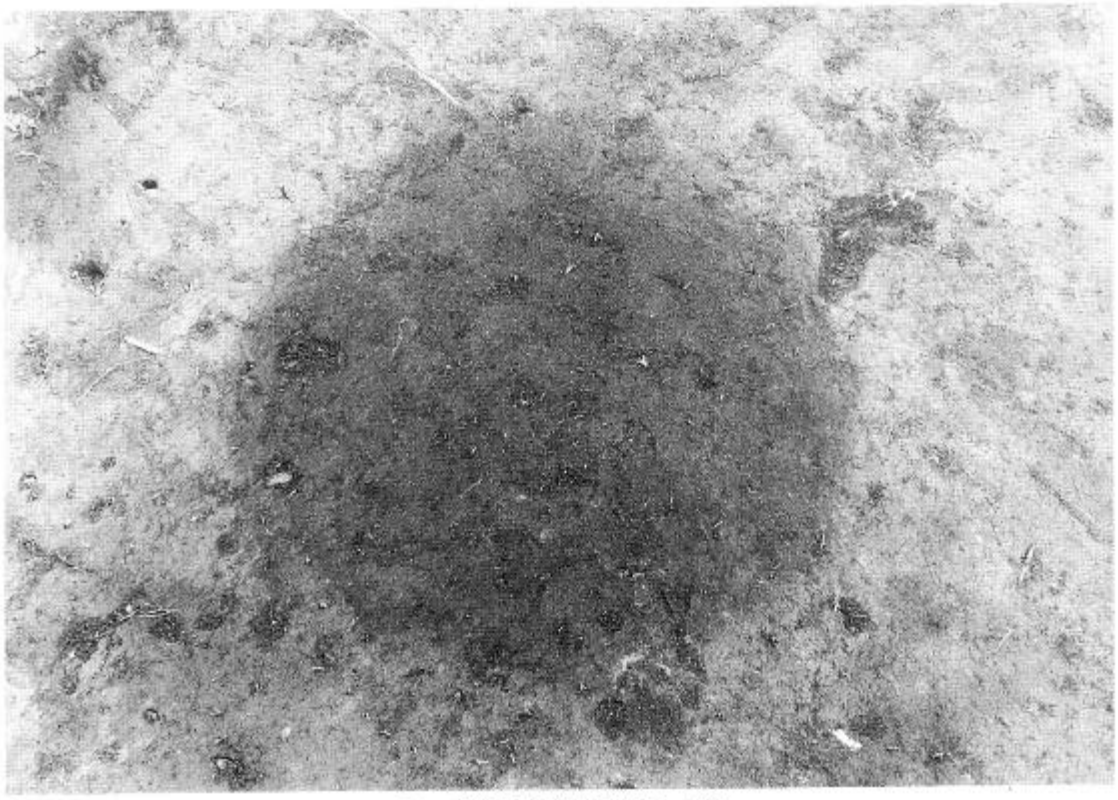
2　ＳＫ02確認状況（南一北）



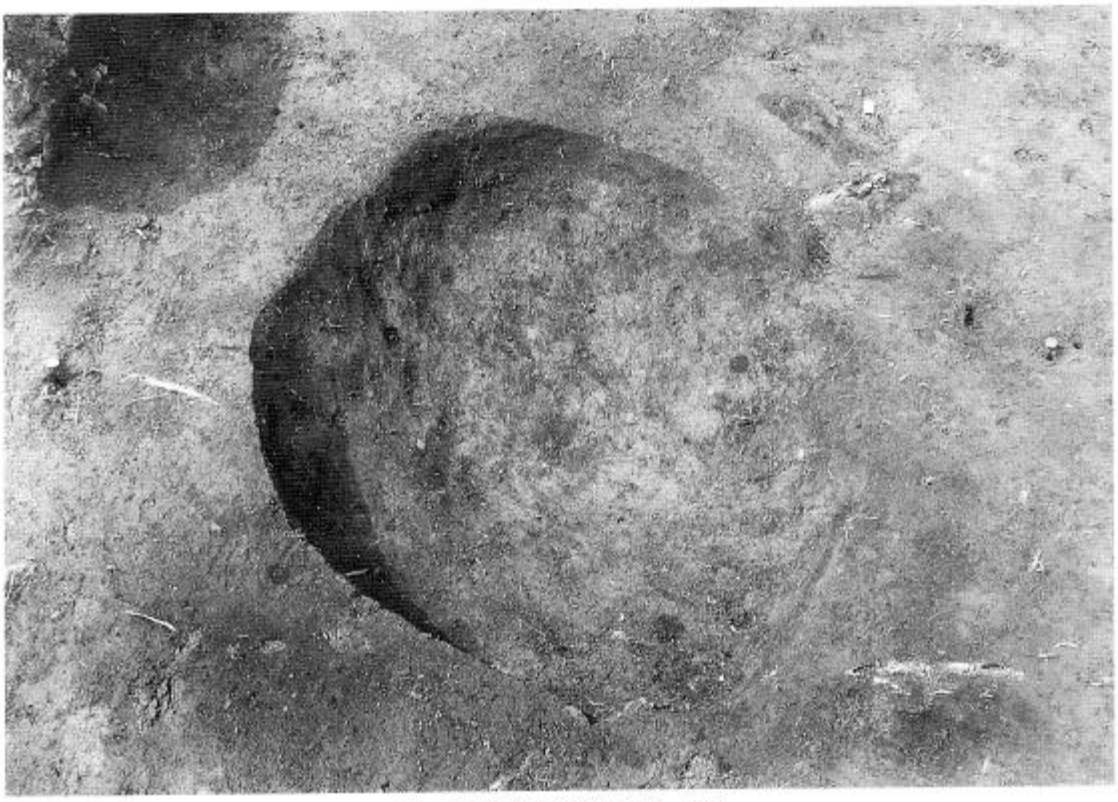
1　ＳＫ02完掘状況（南一北）



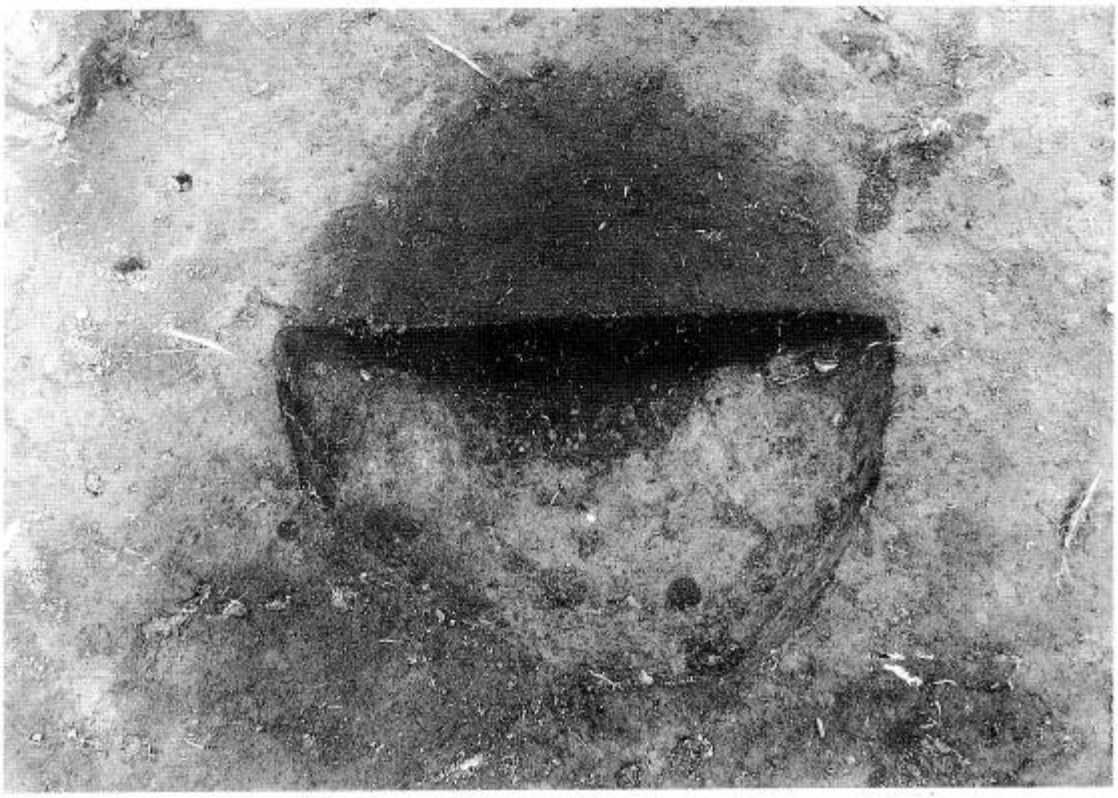
2　ＳＫ02土層断面（南一北）



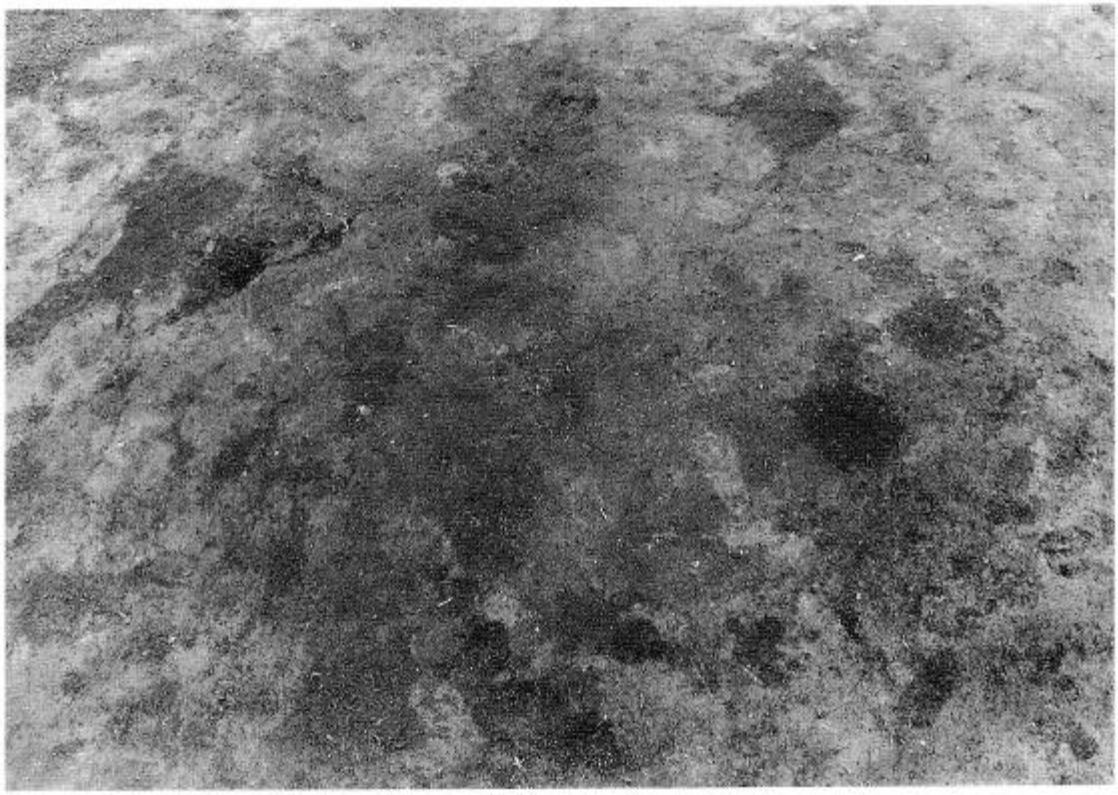
1　ＳＫ03確認状況（南一北）



2　ＳＫ03完掘状況（南一北）

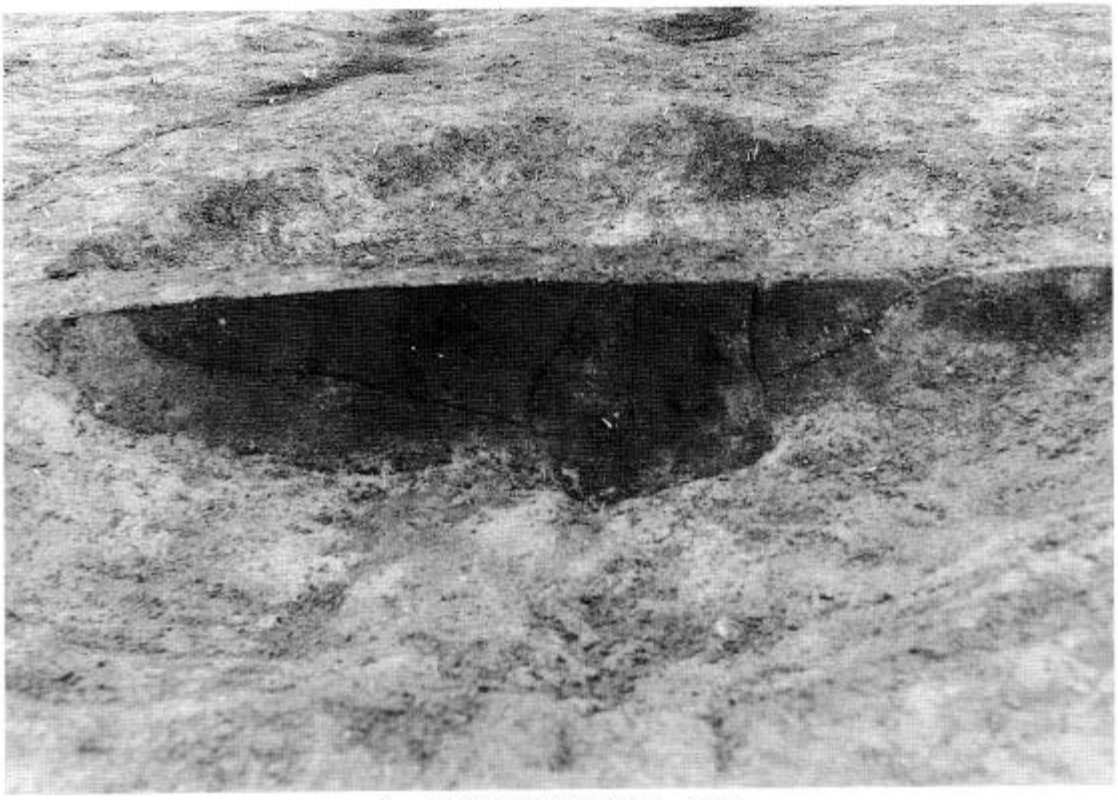


1　ＳＫ03土層断面（南一北）

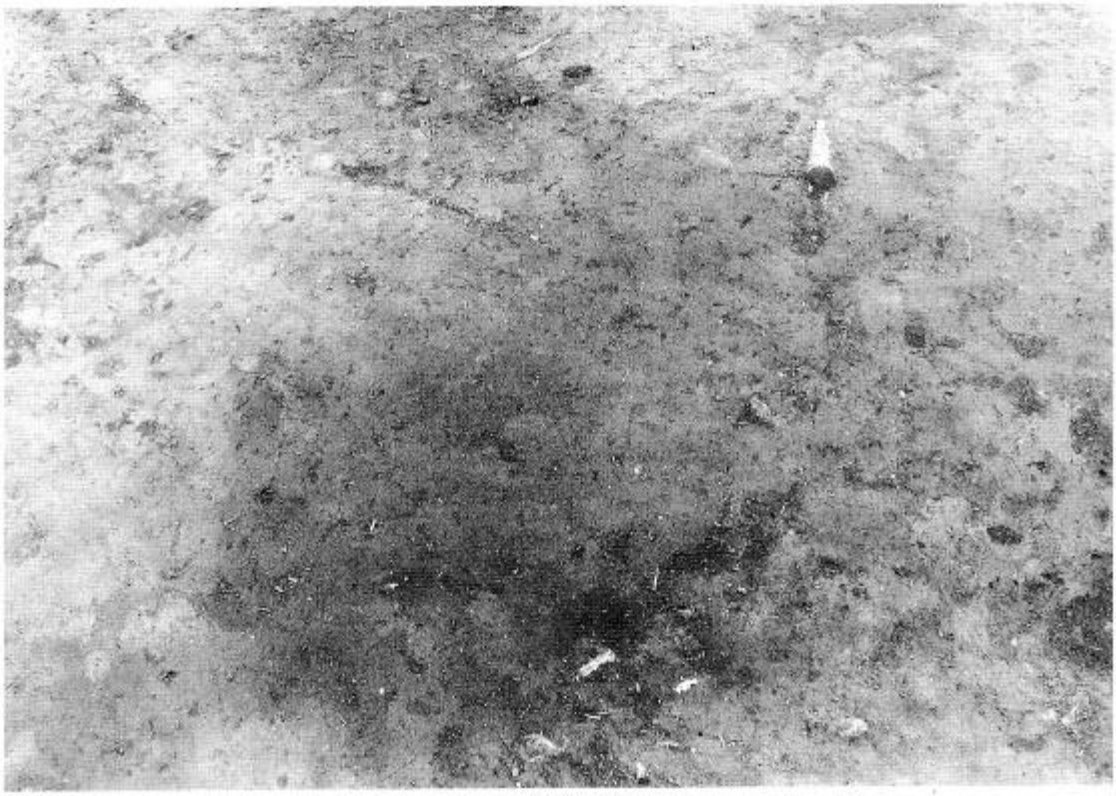


2　ＳＫ05確認状況（西一東）

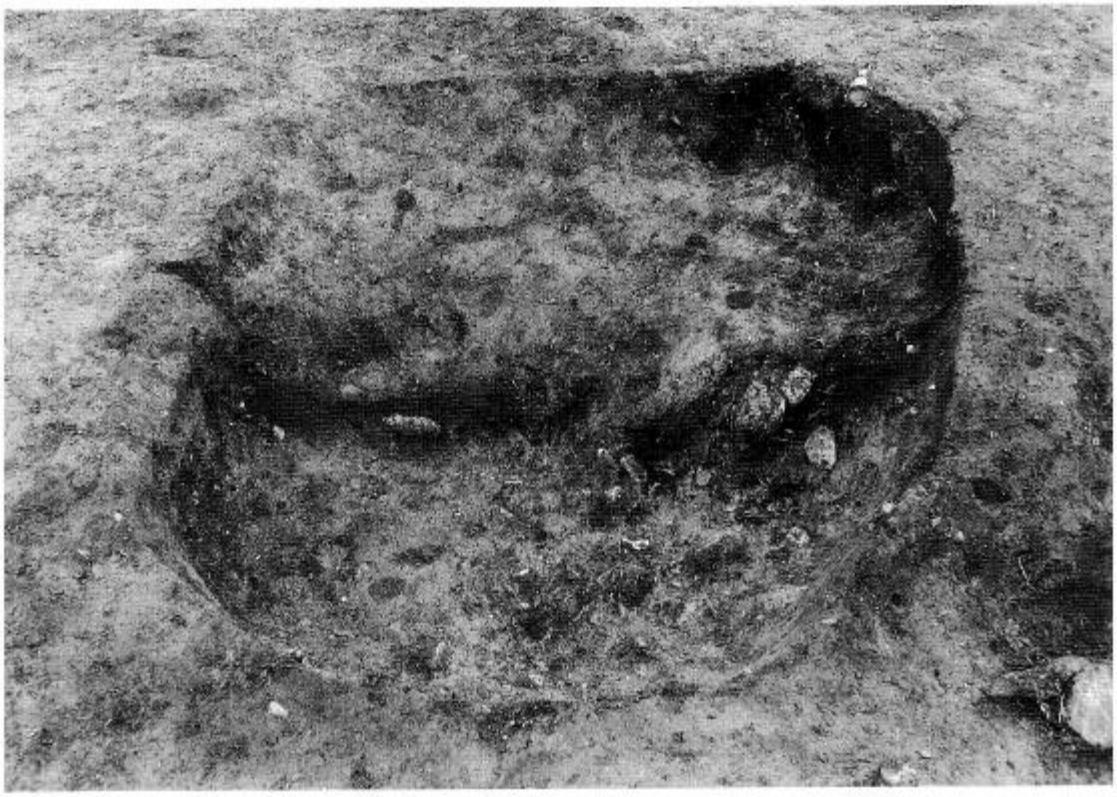
1　ＳＫ05完掘状況（南一北）



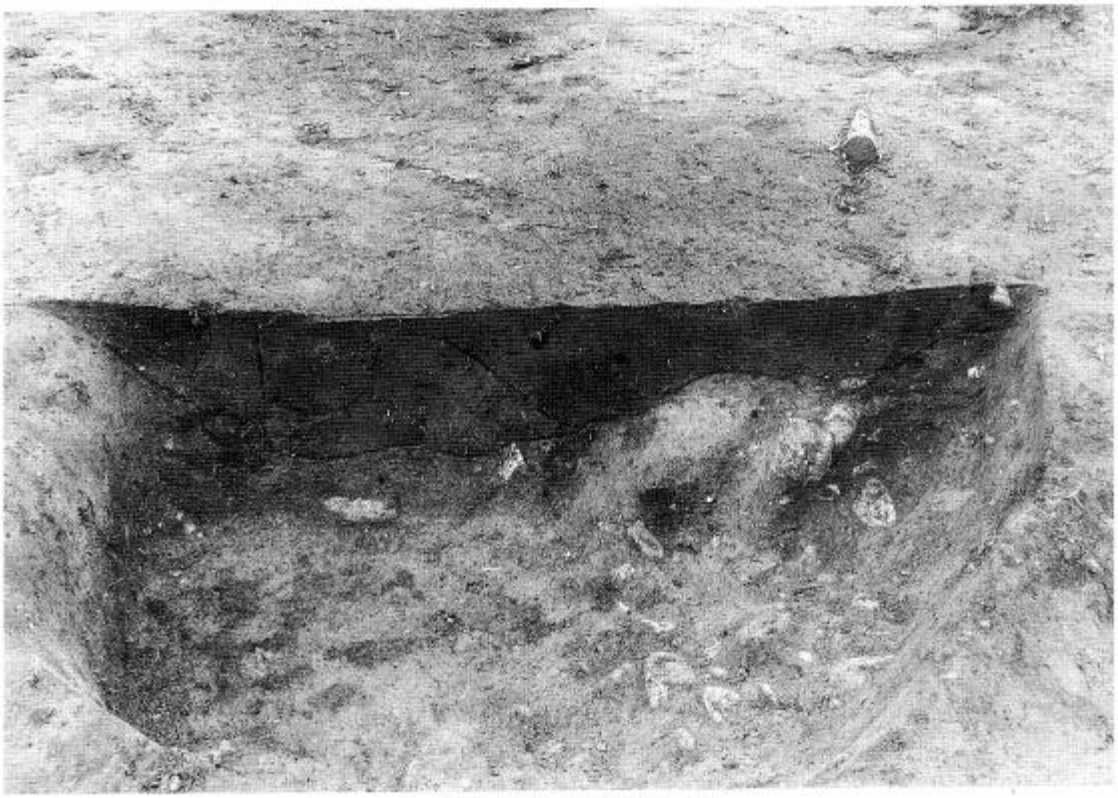
2　ＳＫ05土層断面（南東一北西）



1　ＳＫ07確認状況（南一北）

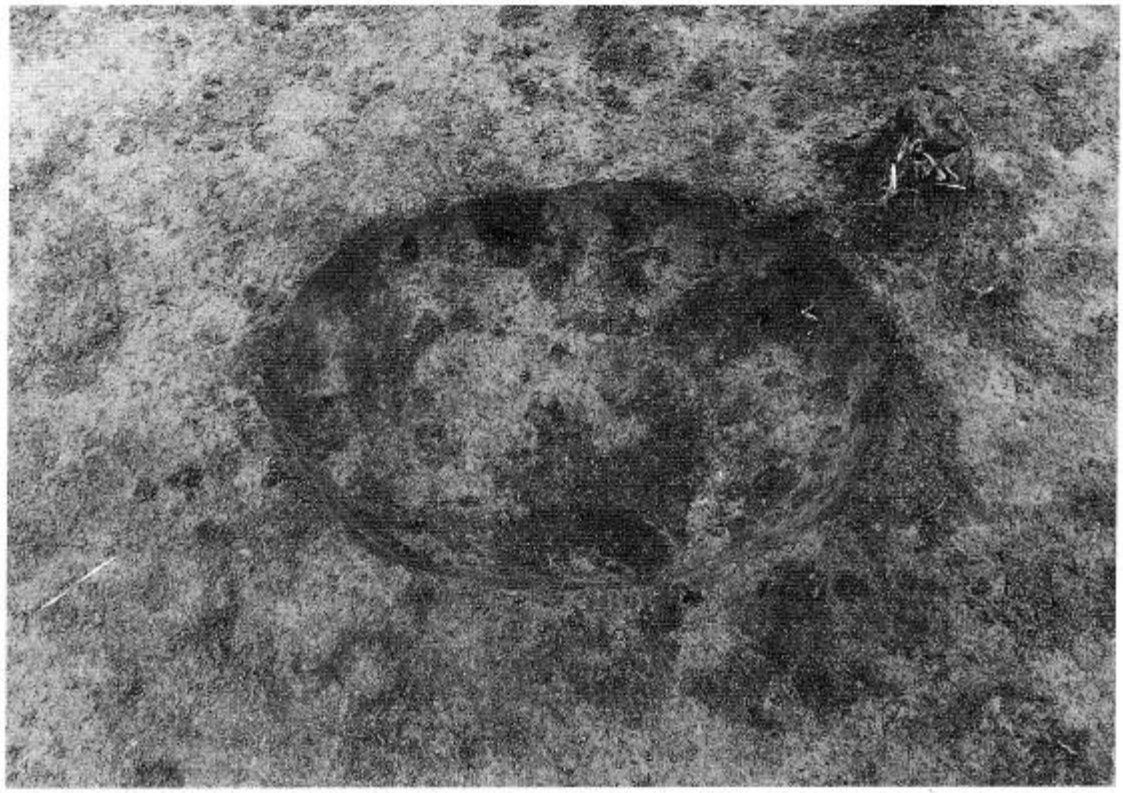


2　ＳＫ07完掘状況（南一北）

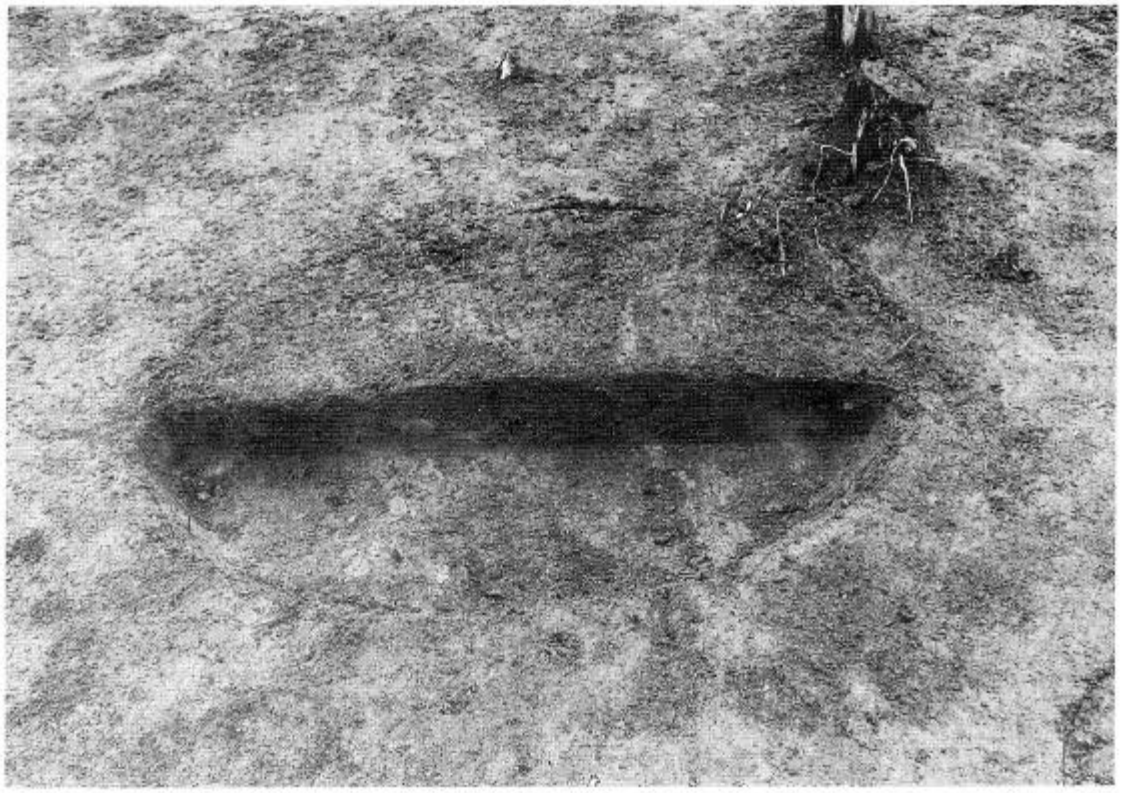


1　ＳＫ07土層断面（南一北）

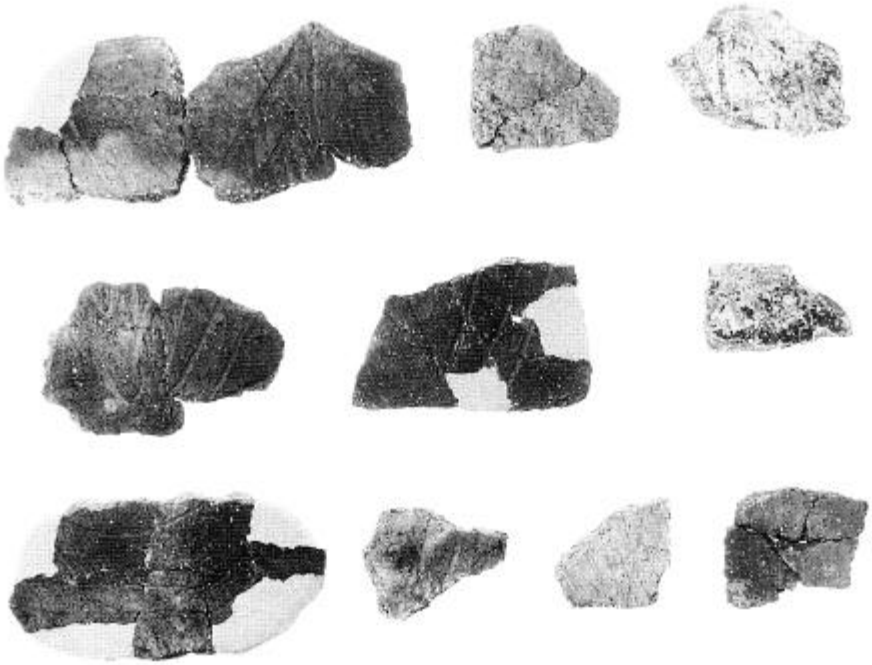
2　ＳＸ08完掘状況（南西一北東）



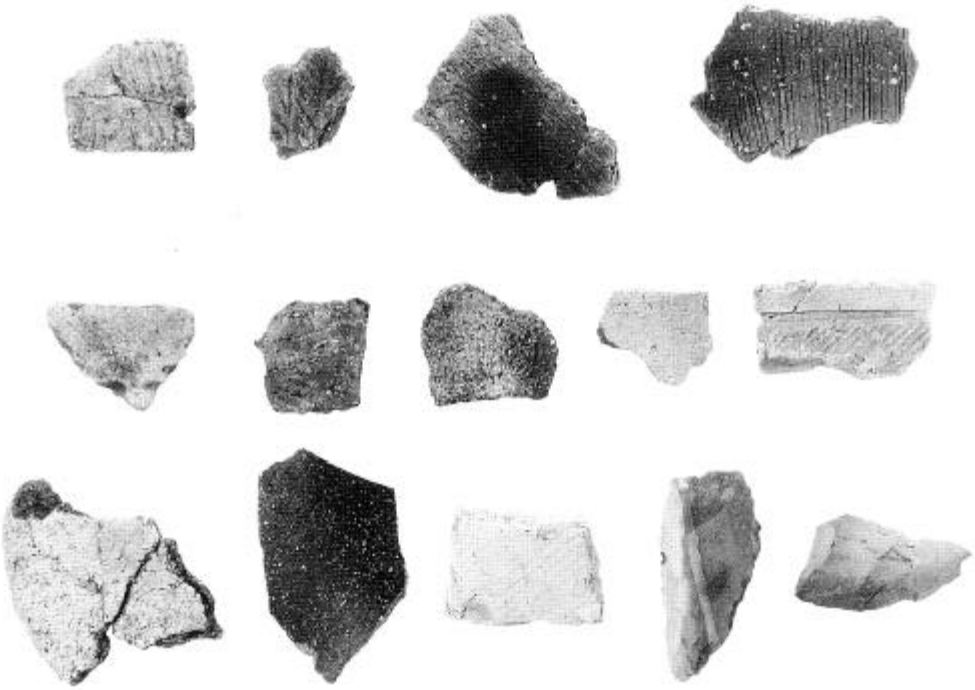
1　ＳＫ11完掘状況（南一北）



2　ＳＫ11土層断面（南一北）



1　縄文土器



2　縄文土器・須恵器・石器

報告書抄録

ふりがな	たいにいせき
書名	岱Ⅱ遺跡（第２次調査）
副書名	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	XIII
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第341集
編著者名	村上義直
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　ＴＥＬ0187-69-3331
発行機関	秋田県教育委員会
所在地	〒010-8580　秋田県秋田市山王３丁目１番１号　ＴＥＬ018-860-5193
発行年月日	西暦2002年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
岱（たい）Ⅱ遺跡（いせき）	秋田県（あきたけん）河辺郡（かわべぐん）河辺町（かわべまち）畑谷字（はたやあざ）岱（たい）314外（ほか）	05381		39度 37分 58秒	140度 10分 54秒	20010423 ～ 20010516	423	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岱Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代中期 縄文時代後期 古代	竪穴住居跡 土坑 焼土遺構	縄文土器 石器 土師器 須恵器	台地縁辺部に位置し、竪穴住居跡・土坑・焼土遺構などを伴う縄文時代の集落跡である。

あ と が き

調査は日沿道の建設工事と併行して行われました。ラジオ体操が終った後、春のやわらかな日差しの中、職員・作業員が細長い列になって調査区に向かった朝の風景を思い出します。１人の負傷者も出さず調査を終える事ができたのはなによりでした。

報告書の刊行には多くの方々から協力をいただき、誠にありがとうございました。ここに、発掘調査及び整理作業に従事した方々の名前を記し、感謝の意を表します。

【発掘作業従事者】 石井いさ子　石井　京子　石井よし子　加賀谷敏光　斎藤　輝子
佐々木ナルミ　佐々木ミヲ子　佐々木リエ子　鈴木　清敏　鈴木　恵子
関　冨雄　長谷川精二　堀井　ナミ　三浦アエ子　三浦　金男

【整理作業従事者】 相場美喜子　相原すみ子　青木美貴子　石井ひとみ　石塚　春美
井手　康子　伊藤　聡子　伊藤　里佳　井上　明子　岩谷みどり
小野寺博子　加藤　智子　鎌田　耕治　菊地奈穂美　北埜　洋子
北林　玲子　工藤　裕子　熊谷キミ子　熊谷　信子　熊地　幸子
斉藤　由希　齊藤　良子　坂本　玲子　佐々木たき子　佐々木満子
佐々木みどり　佐々木理恵　佐藤　温子　佐藤　順子　佐藤美智子
佐藤　優子　鈴木留美子　高橋　麗子　武田美奈子　千葉　恵子
内藤加代子　中田ルミ子　長谷川倫子　長谷川ミネ子　畠山恵美子
原田利恵子　正木　祐子　三浦　祥子　三澤　奈歩　三森　和人
宮田美奈子　八島　知江　矢野真由美　楊　国萍　渡辺イミ子
渡部　浩一